

# 第1章

## 喜多方市の概要



## 1. 自然的・地理的環境

## (1) 位置

本市は、福島県の北西部、東京から約250km圏域内に位置します。会津盆地の北部に位置することから、本市の市街地を中心に古くは「北方」と称されてきました。市域は、東西約59km、南北約50km、総面積554.63km<sup>2</sup>であり、県下第6位の規模を有しています。北は山形県米沢市・同県飯豊町、東は北塩原村、西は西会津町・新潟県阿賀町、南は会津若松市・会津坂下町・湯川村・磐梯町と接しています。



図 1-1：喜多方市の位置（国土地理院地図白地図を基に作成）

## (2) 地形

本市域は奥羽山脈の南端部にあたり、会津盆地北部の中央低地と飯豊山地に属する北部の山地と西部の山地、奥羽脊梁山脈に含まれる東部の山地で構成されます。中央低地の大部分は標高が170～220mで、南流する複数の河川が形成した緩やかな傾斜の複合扇状地です。

北部の山地は標高1,000m以上の峰が連なる大起伏山地とその南方の中起伏山地からなり、北西に屹立する標高2,000m級の飯豊連峰に連なります。

西部の山地のほとんどは、高度の低い丘陵性山地である山麓地と阿賀川等河川の河岸段丘地域です。

東部山地は大塩川から北側が山麓地、南側が山麓斜面の様相を呈する火山麓地が広がっており、この火山麓地は、猫魔火山の噴火により形成された直径2.5kmの外輪山の西側斜面にあたり、外輪山の内側にはカルデラ湖である雄国沼おぐにぬまがあります。

これらのことから本市域の地形は、扇状地性の低地、河岸段丘、山麓地、火山麓地、山地の5地形に大別できます。

飯豊山（標高2,105m）から中央低地の阿賀川河畔（標高約170m）まで、本市の標高差はおよそ2,000mあり、福島県内でこれだけの標高差を持つ自治体はほかにありません。この標高差は河畔植物群から高山帯植物群まで、多様な環境に適応した幅広い植物相や動物相を生み出し、人々のくらし等にも影響を与え、多様な文化を発達させてきました。

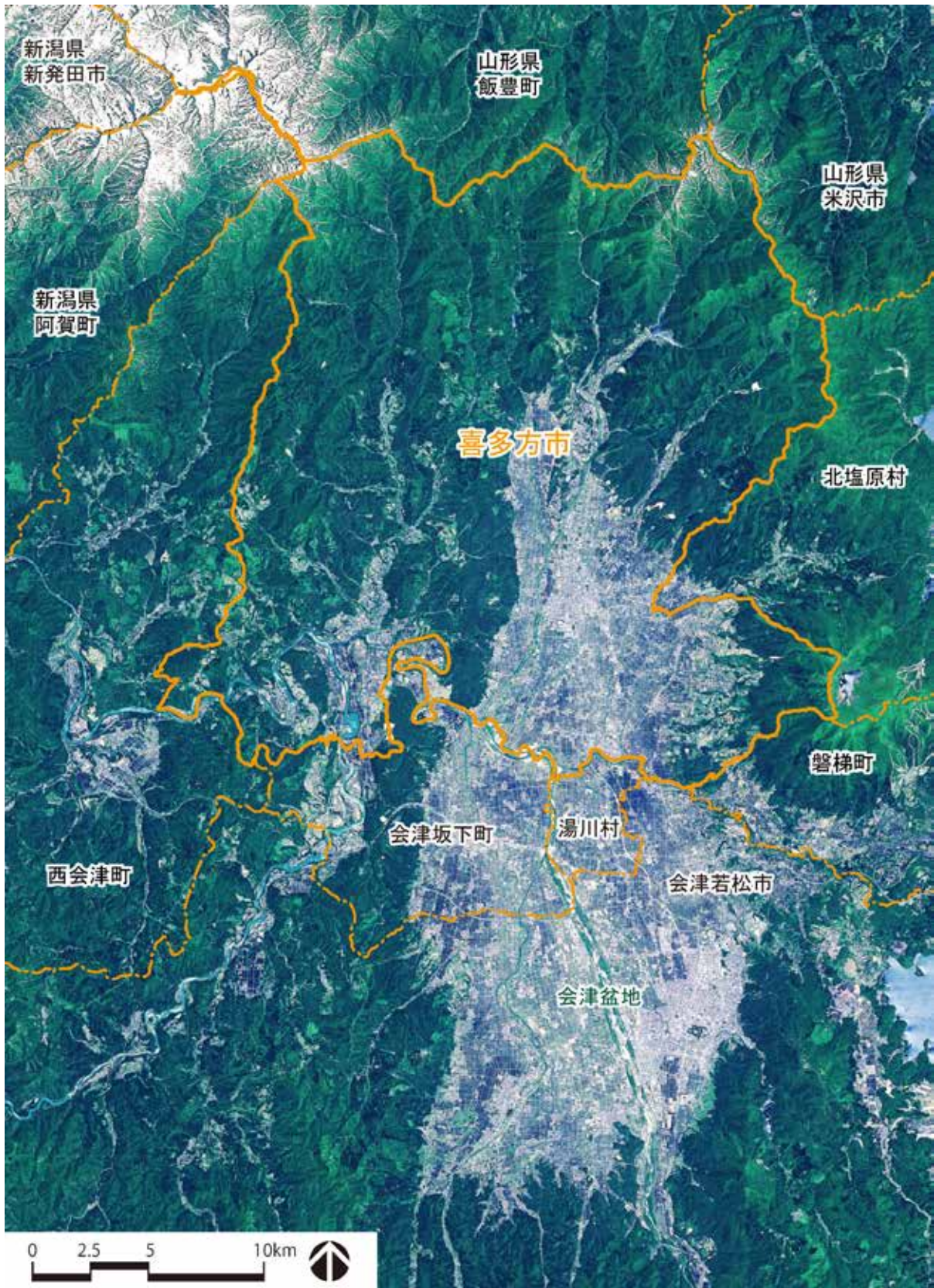


図 1-2 : 会津盆地と喜多方市の位置  
(国土地理院電子地形図25000のデータを基に作成)

## ①山系

北部の山地には、東北地方第5位の高峰である標高2,105mの飯豊山をはじめとして、地形分類上飯豊山地の一部に属する標高1,000m以上の山々が連なっています。北西から、新潟・山形県境にある飯豊山・種蒔山・三国岳いぼいわやま・疣岩山いぼいわやま・地蔵山と標高1,500m以上の山々が連続した峰を形成しています。県境の中央には牛ヶ岩山あかくずれやま・赤崩山あかぶせやま・大塚山、北東には飯森山はちぶせやま・鉢伏山つがみね・梅峰つがみねが連なります。赤崩山から南に続く山稜に曾倉山・黒森山が、疣岩山から南に続く山稜に代塚山とやもりやま・鳥屋森山等標高1,000m級の山が連なります。

西部の山地には、大平山や鳥屋峠山とやとげやま・堂峰山どうみねやま等の標高500m程の山が南へと続き、山稜は枝分かかれし、その先の稜線上に富士山かざこしやま・風越山等の丘陵性山地が連なります。阿賀川の対岸には鳥屋山とやさん・高寺山があります。

東部の山地には、北塩原村との境に標高1,443mの高曾根山こうぞねやまがあり、高度を下げながら南西に続く山稜端部に大仏山、南東には猫魔火山の外輪山である雄国山があります。中央低地の西縁には、縁辺を沿うように北から南へ高森山・館山・琴平山・虚空蔵森等500～300mの低山地が連なっています。

## ②水系

東から日橋川にっぽしがわ、北から一ノ戸川・五枚沢川・二ノ沢川・濁川にごりがわ・野辺沢川・押切川おしきりがわ・田付川たづきかわ・姥堂川うばどうがわ・大塩川等の河川が流れています。これらの河川は、盆地の南から北流してくる阿賀川に合流し、西北西に流路をとって只見川ただみがわと合流し、県境を越え新潟県で阿賀野川あがのがわと名を変えて日本海に注いでいます。また、飯豊山麓の御沢上流部に位置する飯豊連峰の大滝等、本市の自然景観形成の重要な要素ともなっています。

本市では主に河川の水を生活用水や農業用水として使用してきましたが、特に飯森山からの水系は日中ダム（日中ひざわ湖）に貯水され、飲料水や農業用水への利用や、水力発電による電力の供給も可能になりました。

また、自然湧水や地下水も豊富であり、昔から生活用水や伝統的な地場産業である清酒や醤油等の醸造業に利用されてきました。

しかし、近年は、市街地での湧水の減少や地下水位の低下が顕在化しており、その要因として河川改修や圃場整備等による流水路の整備、冬期間の道路消雪用水等が考えられています。



写真 1-1 : 飯豊山



写真 1-2 : 阿賀川

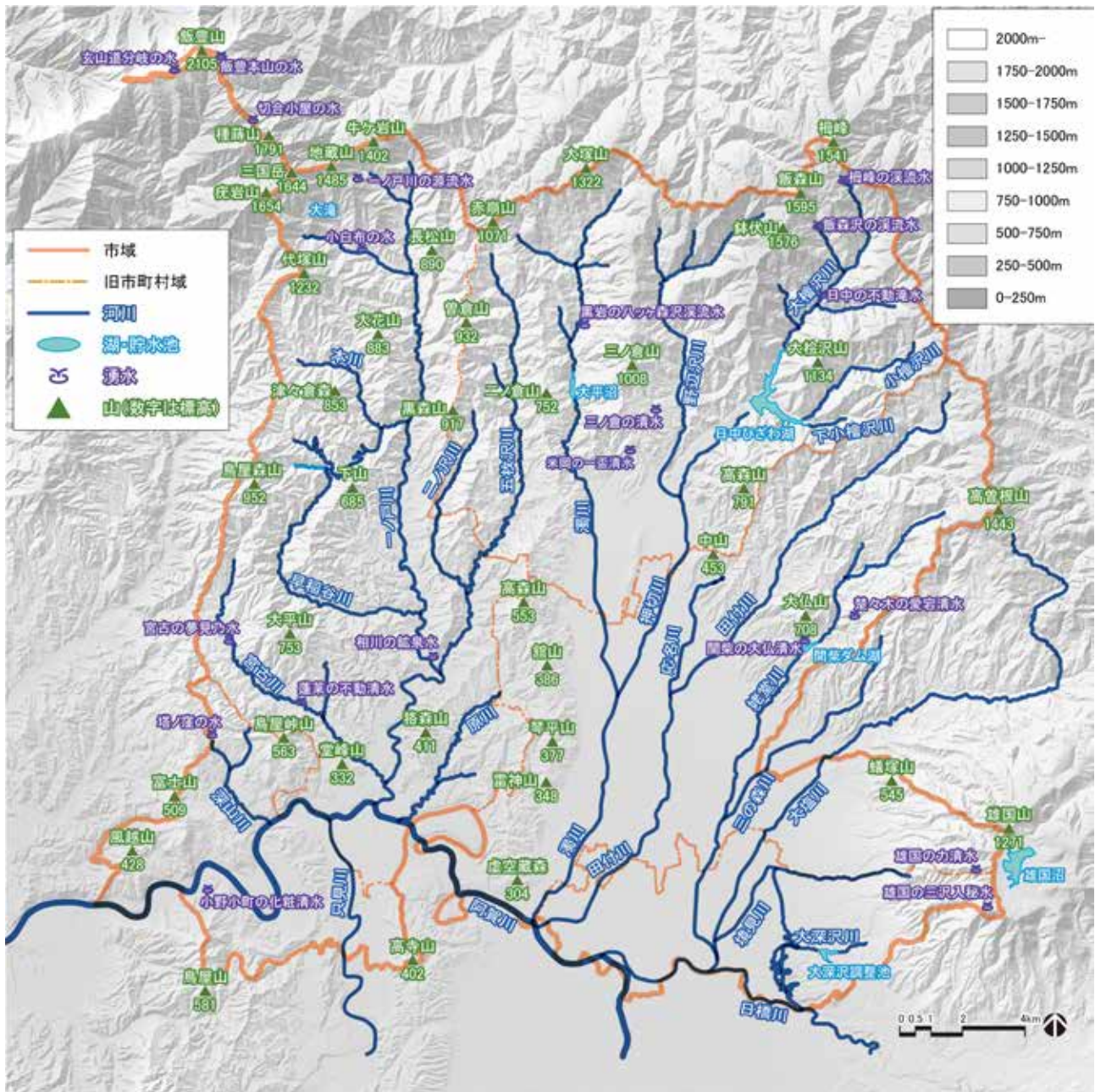


図 1-3 : 喜多方市域の主な河川・湧水・山  
 (国土地理院基盤地図情報数値標高モデルを基に作成)

### (3) 地質

市域各地で阿賀川に流れ込む河川は、丘陵地域の岩盤を侵食しながら蛇行し、かつ上流から運んできた土砂を河床に堆積させたため、阿賀川流域には4～5段の河岸段丘が形成されています。喜多方市街地が広がる会津盆地とこれらの河岸段丘の堆積物は、中期更新世から完新世の河川堆積物によって形成されたものです。

これに対して、本市域では会津盆地と河岸段丘を取り囲むように東西の両丘陵・山地が隆起する構造が発達しており、これらの丘陵・山地は中期中新世の海成層、後期中新世から前期更新世の海成層及び火砕流堆積物を中心に構成されています。

東部山地は、大塩川を起点として、北側は中期中新世の海成層や前期更新世の火山岩類を中心に構成されており、南側は前期更新世の猫魔火山噴出物の溶岩や火山砕屑物によって形成された外輪山を主としています。

市域の北西側に広がる飯豊連峰付近は中生代（三畳紀～白亜紀）の堆積岩と花崗閃緑岩によって構成されています。その南側には後期中新世～完新世の地層が露出しています。このうち、海底火山の噴出物を主とした緑色凝灰岩は「荻野石」と呼ばれ、建材に利用されています。また、1,000～900万年前に堆積した塩坪層は、海生生物や海生哺乳類の化石が多く産出することから、「塩坪化石層」として市の天然記念物に指定されています。塩坪層から産出した「アイヅタカサトカイギユウ」の化石は、新種のカイギユウとして福島県の天然記念物に指定されており、鯨類化石や貝化石等とともに「カイギユウランドたかさと」に展示されています。



図 1-4：喜多方市域の地質（GSJ、AIST、20万分の1日本シームレス地質図を基に作成）

#### (4) 気候

本市の気候は、基本的に日本海側気候に区分されます。日中や年間の寒暖の差が大きく、夏は蒸し暑く冬は北西季節風が吹き、降雪量も多く寒さも厳しいという盆地性の内陸性気候の特徴を有しています。

気象をアメダス喜多方（北緯37度39.5分・東経139度51.8分・標高212.0m）の平成3年（1991）～令和2年（2020）の平年値をみると、年平均気温11.4℃、年降水量1,555.8mmとなっています。

冬季（12～2月）は、平均気温は氷点下となり、降雪による降水量が増加します。この時期の積雪は平均1～2m、多いところでは3mに及ぶことから、豪雪地帯対策特別措置法に基づいて、喜多方・塩川地域が豪雪地帯<sup>3</sup>、熱塩加納・山都・高郷地域が特別豪雪地帯<sup>4</sup>に指定されています。

ただし、近年の積雪は1m前後で推移し、盆地内の喜多方・塩川地域では1mに満たない年もあります。

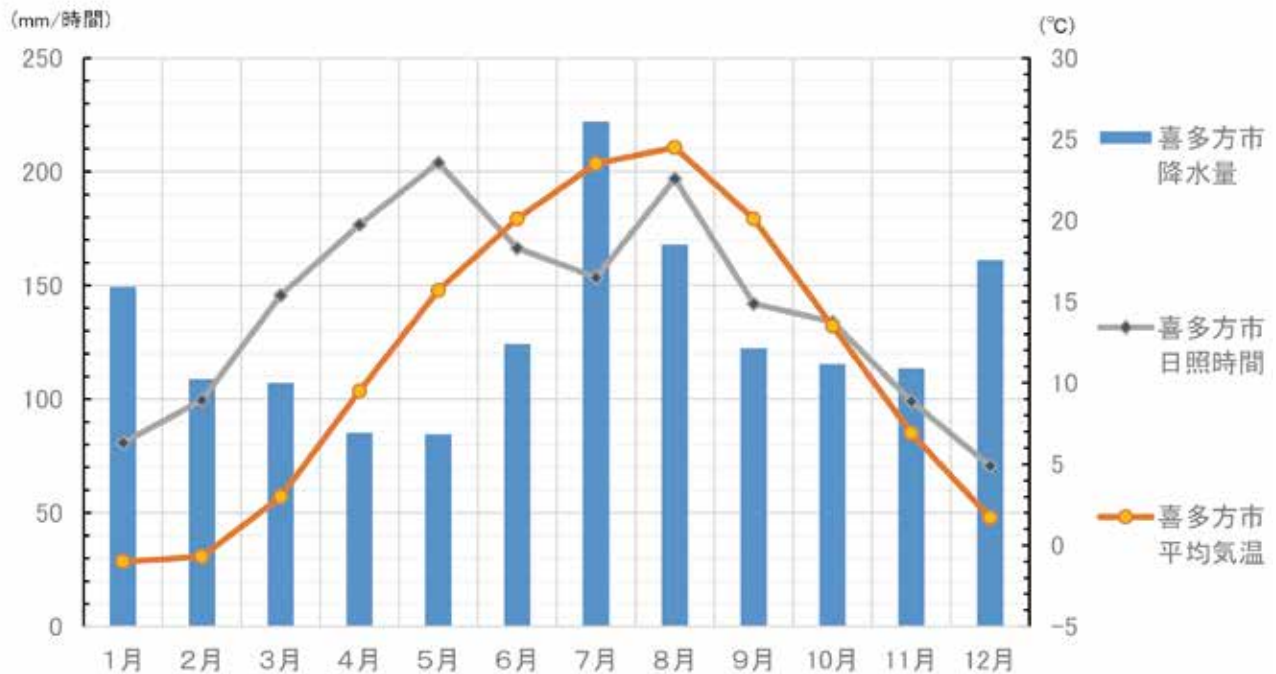


図 1-5：喜多方市の降水量・日照時間・平均気温の比較

（気象庁「過去の気象データ」：平成3年～令和2年までの過去30年間の観測値の平均値を基に作成）

3 積雪が特にはなはだしいため、産業の発展が停滞的で、かつ、住民の生活水準の向上が阻害されている地域で、豪雪地帯対策特別措置法第2条第1項に基づき指定された地域です。

4 豪雪地帯のうち、積雪の度合いが特に高く、かつ、積雪により長期間自動車の交通が途絶するなどにより住民の生活に著しい支障が生じる地域で、豪雪地帯対策措置法第2条第2項に基づき、指定された地域です。

## (5) 動植物

## ①植物

本市域の大部分は山地帯に属し、夏緑樹林が広がっています。飯豊山地の上部は亜高山帯と地理的に高山帯に属します。また、植物区系で日本海地域に区分され、特有の植物が広く分布しています。北部山地では、標高1,400m付近まではブナの自然林となり、林床にはヒメアオキ・ヒメモチ・ユキツバキ等が生育し、雪崩のない尾根筋にキタゴヨウ・アシウスギ（飯豊スギ）等の針葉樹、雪崩地の山腹急斜面にヒメヤシャブシ・タニウツギ等の低木、沢沿いの湿性にサワグルミ・トチノキ等の林が分布します。飯豊山地は豪雪のため偽高山帯と呼ばれ、ブナの自然林の上部にはオオシラビソの針葉樹林がなく、背の低いダケカンバやミヤマナラ等の低木群落は森林限界まで続いています。ただし、梅峰山頂にはオオシラビソが分布します。森林限界を過ぎた所には、ハイマツ群落があり、雪田植生にハクサンコザクラ等、乾生草原にタカネマツムシソウ等の高山植物が開花します。

西部と東部の山地では、標高800m以上のブナの薪炭林地跡等にブナ-ミズナラ群落は広がり、標高700m以下の低山地や丘陵地の里山には萌芽力の強いコナラの雑木林や、乾燥・貧栄養に強いアカマツ林が広がり、山裾にはスギの植林地、放置された土地等にはススキ草原が広がっています。

中央低地は、自然状態ではヨシ原にハンノキが被いますが、ほとんどが水田や畑地として開発され、その姿を塩川地域にわずかに見ることができます。ホタルブクロ・フデリンドウ等の野草、ミミナグサ等の雑草、スイバ等の人里植物と草本の群落が中心となっていますが、ミチタネツケバナ等の帰化植物が繁茂し、種類数・個体数も増え続け、在来植物との区別が難しくなっています。

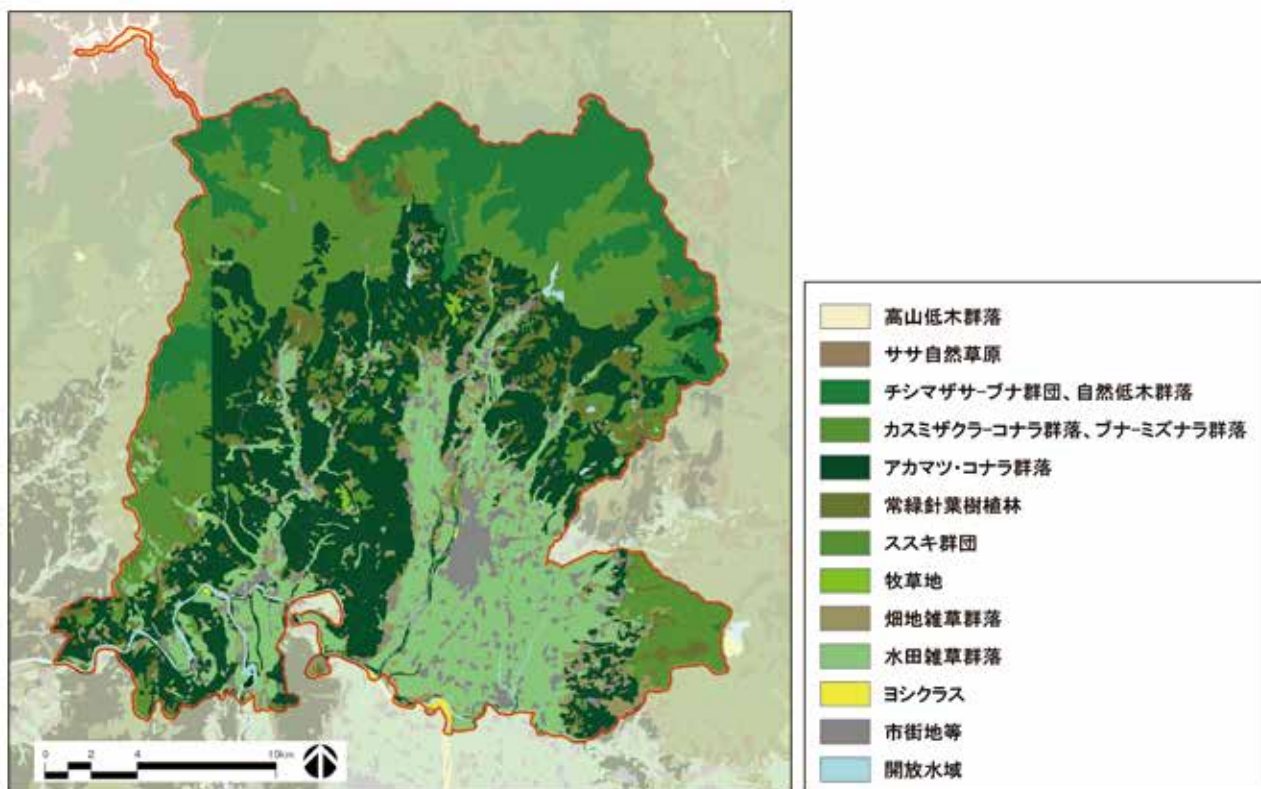


図 1-6 : 喜多方市域植生図

(第5回自然環境保全基礎調査植生調査結果を基に作成)

## ②動物

豊かな自然の中にたくさんの動物が成育しているのが特徴です。

陸封型イトヨ、ギフチョウ・キマダラルリツバメは市天然記念物として保護の対象となっていますが、生息環境の悪化や乱獲による個体数の減少が懸念されています。

里山のホタルやオオムラサキを見守っている地域では、管理者の高齢化が現実問題として心配されます。

また、原野や湿地・湖沼・雑木林等動物の生息地の荒廃や減少、生活排水による水質汚濁、河川改修工事等による生息環境の悪化、本来生息していなかった外来生物の侵入等により既存の生態系への影響が懸念されています。

表 1-1：喜多方市域に生息する主な動物

ほ乳類	ニホンツキノワグマ・ニホンカモシカ、ニホンザル
	ホンドタヌキ・ホンドキツネ・トウホクノウサギ・ホンドリス・ホンドイタチ・ムササビ・ニホンアナグマ・ネズミ類・モグラ・ヤマネ・コウモリ類
鳥 類	市街地…ハシブトカラス・ハシボソカラス・ヒヨドリ・スズメ・シジュウカラ・ムクドリ・キジバト・ハクセキレイ・カワセミ・ツバメ
	水田・畑地…アオサギ・トビ・キジ・ヒバリ・カワラヒワ・ツグミ
	河川敷…セグロセキレイ・イカルチドリ・カワウ・オオヨシキリ
	里山…モズ・メジロ・ウグイス・ケラ類・カラ類・オオルリ・キビタキ・ツツドリ・ホトトギス・ジョウビタキ・アトリ
	溜池・ダム…コハクチョウ・コガモ、オナガガモ、ホシハジロ・キンクロハジロ・マガモ・オナガガモ・コガモ・カルガモ
	山地の溪流…カワガラス・ヤマセミ
	山地…サンコウチョウ・アカショウビン・オオタカ・クマタカ・ハヤブサ
は虫類	ニホンヤモリ・ニホントカゲ・ニホンカナヘビ・シマヘビ・ジムグリ・アオダイショウ・ヒバカリ・ヤマカガシ・マムシ
両生類	クロサンショウウオ、イモリ、モリアオガエル・カジカガエル・ニホンアカガエル等
昆虫類	人家周囲…アゲハ・キアゲハ・ベニシジミ・モンシロチョウ・スジクロシロチョウ・コムスジ・キチョウ・ウラギンヒョウモン・ヤマトシジミ
	丘陵地…テングチョウ・スミナガシ・オオムラサキ・カラスアゲハ・クロアゲハ・ミドリシジミ
	山地・高山…ベニヒカゲ・アサギマダラ・ミヤマカラスアゲハ・キベリタテハ・エルタテハ
	カゲロウ類…ヒラタカゲロウ(幼虫)・チラカゲロウ・キイロカワカゲロウ・モンカゲロウ等
	カワゲラ類…キカワゲラ・オオヤマカワゲラ等
	トビケラ類…ナガレトビケラ(幼虫)・ヒゲナガカワトビケラ等
	トンボ類…コオニヤンマ(幼虫)・ダビドサナエ・ハグロトンボ・ムカシトンボ
ヘビトンボ、ゲンジボタル(幼虫)・ナベブタムシ・ミズカマキリ・タイコウチ・アミカ・ブユ・ユスリカ・ナミウズムシ・スジエビ・サワガニ・カワニナ・タニシ・シマイシビル	

## 2. 社会的状況

### (1) 市の沿革と各地域の特徴

明治8年(1875)、若松県布達第290号によって町村の分合と町村名の改称が実施され、本市域でも、近世の村々が合併されました。当地の呼び名であった「北方」を「喜多方」としたのもこの時でした。

明治22年(1889)に市制町村制の施行により、さらに合併が進み新しい町村が成立しました。

その後、昭和28年(1953)に町村合併促進法が施行されると、昭和29年(1954)から翌年にかけて、旧喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、高郷村が成立しました(資料編「市域の変遷」参照)。

平成11年(1999)から政府が主導となって取り組んだ広域行政・市町村合併、いわゆる「平成の大合併」によって、平成18年(2006)に5市町村が合併し、現在の喜多方市が誕生しました。



図 1-7 : 喜多方市の5地域

#### ①喜多方地域

会津盆地の北部に位置する「北方」地域の中心地です。中心部である小荒井・小田付地区には古くから定期市が置かれ、周辺の農村と結びついた「在郷町」として発展を遂げました。また、近代の自由民権運動「喜多方事件」の舞台でもあります。近年は「蔵のまち」、「ラーメンのまち」として全国的な知名度を得て、多くの観光客が訪れています。

#### ②熱塩加納地域

会津盆地の北端にあり、北は山形県に接しています。地域の90%は山地で、木地師たちが生活を営んできました。かつては源頼朝より会津を拝領した佐原義連を祖とする佐原氏の本拠地であり、ここから会津の中世が開いたともいえます。現在は、日中線記念館や三ノ倉高原のひまわり畑に多くの観光客が訪れ、山形県側に抜ける大峠トンネルの開通により、新たな観光ルートも開拓されています。

#### ③塩川地域

会津盆地のほぼ中央に位置し、近世期は阿賀川を利用した舟運の港町、また米沢街道の陸運の宿場町として発展しました。物流の中継地点として屋号を掲げた問屋が軒を連ね一大商業町であったことから、現在も「屋号とのれんの街」を謳っています。このほか、ハイカーに人気の雄国沼湿原やバルーンフェスティバル等、見どころの多い地域です。

#### ④山都地域

「霊峰」飯豊山麓に位置し、古くから飯豊山へ登拝する人々が訪れる信仰の地であるとともに、会津藩領の山間に開けた地域「山三郷」の中でも越後裏街道の通る物流や商売の中心地として農業や木地師等の諸職を営み、栄えてきました。また、会津盆地を貫流する阿賀川と奥会津から流れる只見川の合流地で、越後塩の移入路ともなっていました。現在も飯豊山の登山者のほか、一の戸橋梁や名物の山都そばを求めて多くの人が訪れます。

## ⑤高郷地域

かつては阿賀川以北が耶麻郡、以南は河沼郡に属しており、この両郡の村々が合併した地域です。地域の大部分は山地ですが、只見川と阿賀川の恵みを受けて、農耕のほか、麻、紙漉き・漆・製炭等の産業が営まれてきました。福島県営荻野漕艇場では、ボートの全国大会や東北大会が数多く開催されています。また、その下流に位置する塩坪化石層から発見された「アイヅタカサトカイギュウ」の化石は、カイギュウの進化を知る上で貴重な資料です。

### (2) 人口の推移

平成18年（2006）の5市町村が合併した当時の喜多方市の人口は、約56,000人を数えました。しかし、それ以降は人口減少が継続し、平成27年（2015）には50,000人を割る状況となりました。令和4年（2022）12月現在では約44,000人となっています。

人口減少の大きな要因の一つとして、出生率の低下が挙げられます。また、高齢単身世帯、単身世帯が増加するとともに、核家族化が進んでいるため、1世帯当たりの人口も減少しています。

本市5地域の人口ピラミッドをみると全体的に少子高齢化社会であることがわかります。特に山間部に位置する熱塩加納・山都・高郷の3地域では、この特徴が顕著です。また、男女ともに10代後半から20代前半の人口の割合が少なくなっており、要因として、進学や就職等のため、市外へ転出していることが考えられます。

なお、本市の長期的な人口推移予想では、2065年までに人口が約30,000人となり、生産年齢人口と老年人口の緩やかな減少が予想されています。将来にわたって活力ある地域社会を維持していくため、若者の流出削減や、子育て世代の流入、本市への移住・定住の促進等を図ることが求められます。



図 1-8：合併後の喜多方市の人口推移（喜多方市HP 人口データベース 人口と世帯数推移より作成）

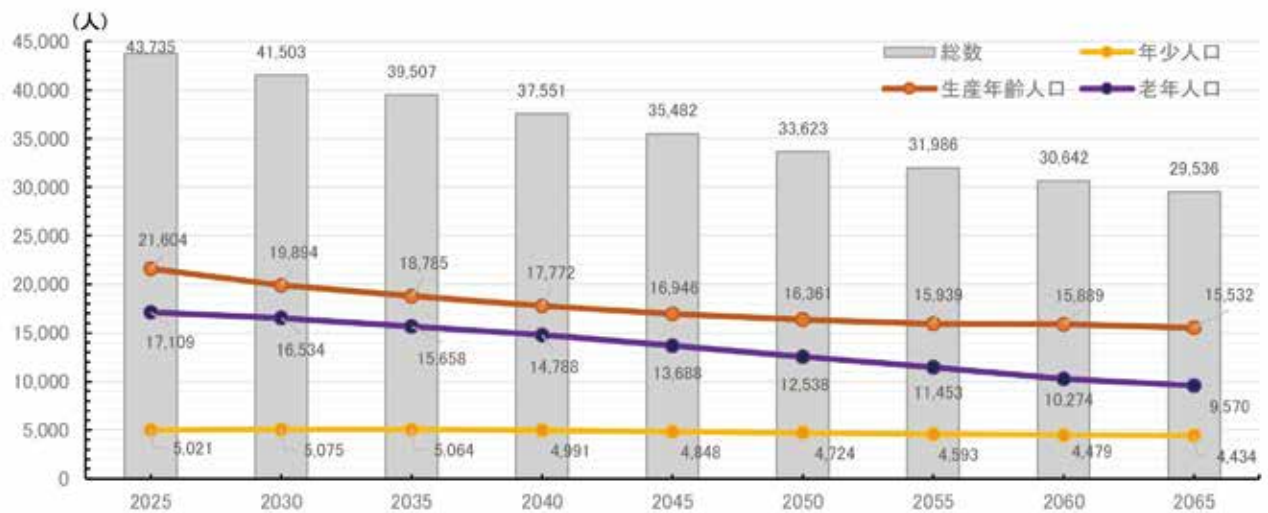


図 1-9：2025年以降の喜多方市の人口推移予想（喜多方市長期人口ビジョンより作成）

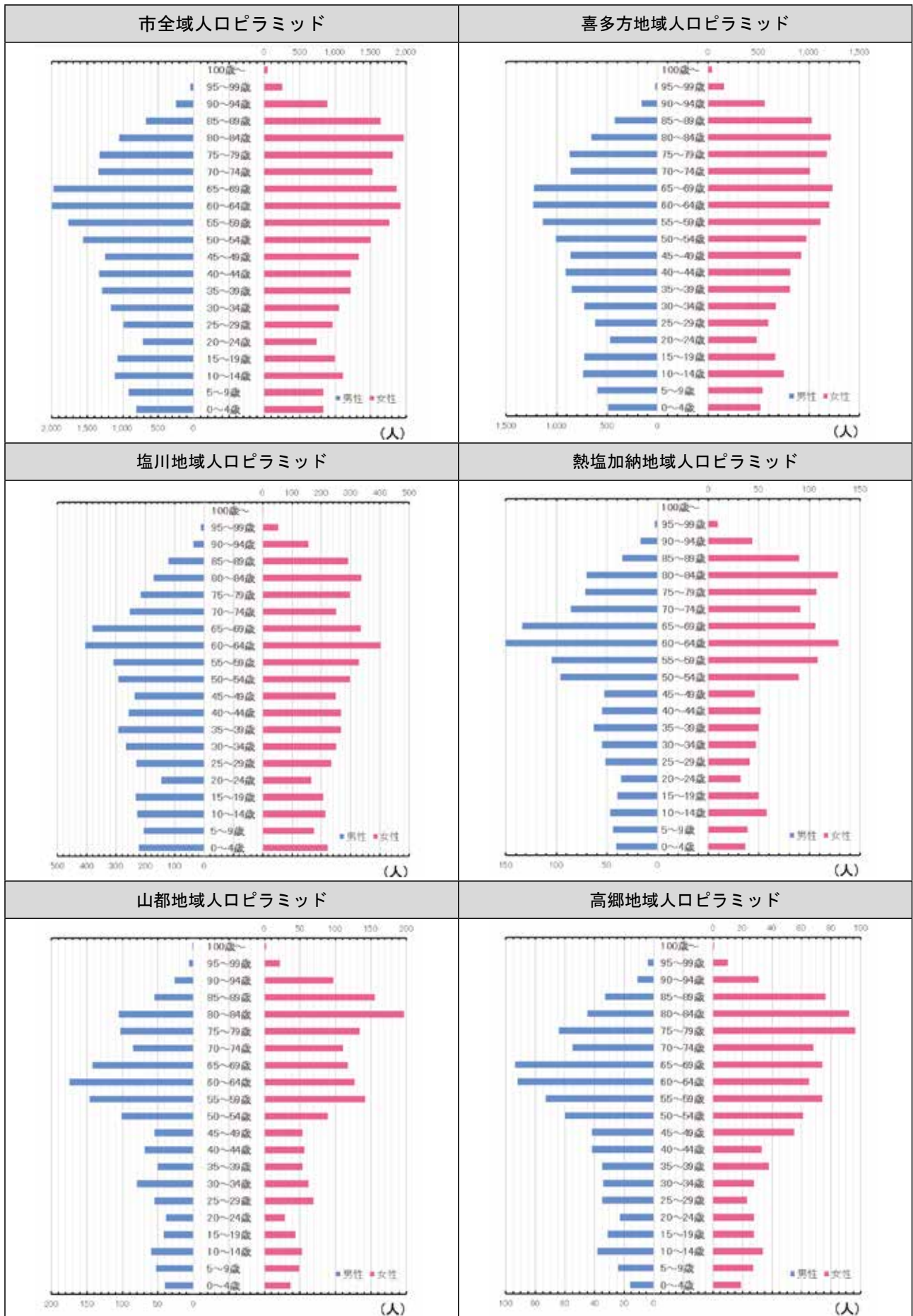


図 1-10 : 喜多方市地域別人口ピラミッド比較  
 (喜多方市 HP 人口データベース 平成 27 年年齢別人口推移より作成)

### (3) 産業

平成22年（2010）時点での本市の就業者人口は24,686人となっています。農業・林業等の第1次産業、工業・建設業等の第2次産業の就業者人口は年々減少しており、半数以上が商業・金融業・運輸業・情報通信業・サービス業等の第3次産業に従事しています。

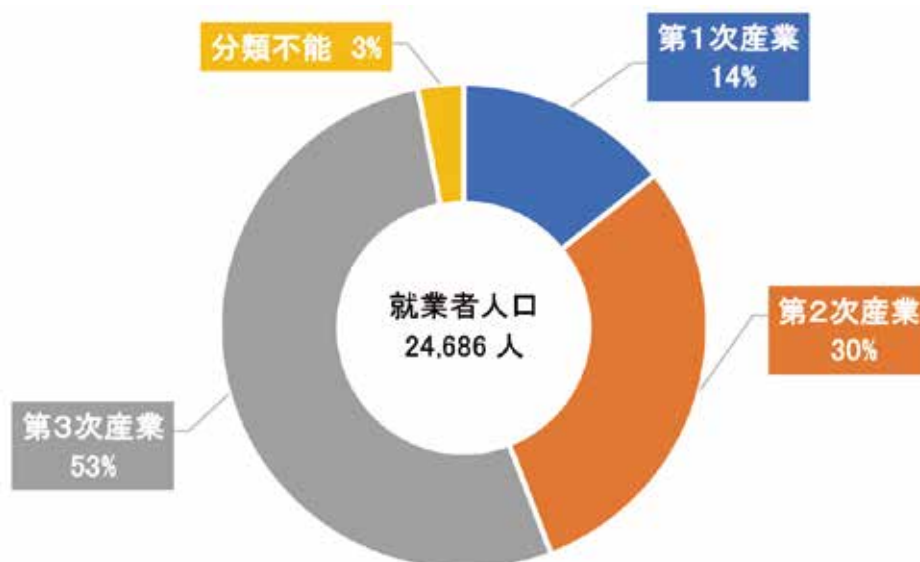


図 1-11：喜多方市の産業別就業者人口割合（国勢調査を基に作成）

本市最大の産業である製造業は、昭和40年（1965）頃の高度経済成長によって非鉄金属、繊維、電子部品等が発展し、この分野に携わる就業人口が現在まで増加してきました。特に、アルミニウム製品関連は、昭和初期から現在に至るまで本市の産業を支える大きな柱となっています。また、伝統的な製造業としては、良質で豊富な水や米を原料とした酒、味噌、醤油等の醸造業や安土桃山時代に会津領主となった蒲生氏郷がも うじさとにより農閑期の副業として奨励され現在まで続く漆器業があります。本市は古今を問わないものづくりのまちとして発展を続けています。

高度経済成長期以前は、肥沃な土壌を背景に稲作をはじめとする第一次産業が就業人口の半数以上を占めていましたが、農産物価格の低迷等により担い手の減少が進み、就業者の高齢化等による農用地の遊休化や森林の荒廃が懸念されています。しかし現在でも水稻を中心に東北地方有数の生産量を誇るグリーンアスパラガス、チェリートマト（プチトマト）、キュウリ、そば粉等の農産物が栽培されています。本分野では、有機栽培・特別栽培の推進といった環境にやさしい農産物の生産に加え、棚田による景観形成を含めた環境に配慮した農業の推進を図っています。

#### (4) 土地利用

市域面積554.63km<sup>2</sup>のうち、山林が50%以上を占め、次いで田畑の利用が20%弱、宅地は3%となっています。これは中央低地の両端の山地が市域面積の多くを占めていることから理解できます。

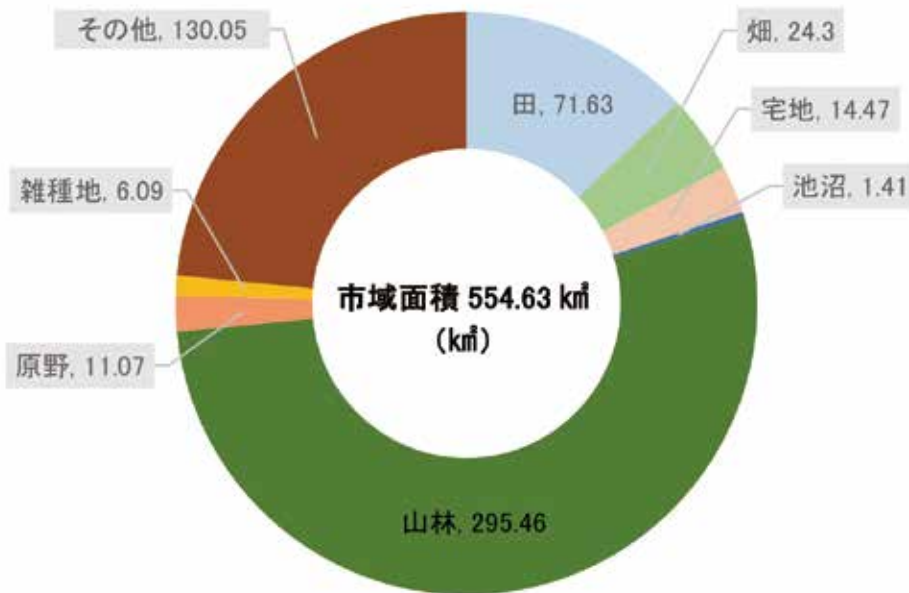


図 1-12：喜多方市の土地利用状況  
(統計きたかた 令和2年度版 土地より作成)

#### ①都市計画区域

平成26年(2014)現在、会津盆地北側に位置する本市の中央低地のほぼ全域が都市計画法に基づく都市計画区域として指定されています。

都市計画区域内では、用途地域として喜多方地域と塩川地域が定められており、良好な市街地形成に向け、住居系・商業系・工業系の地域を設定し、建物用途に一定の制限を行いつつ地域内の特徴に合わせた市街化が促進されています。このなかで小田付伝統的建造物群保存地区は主に準工業地域、小荒井地区は主に商業地域の用途地域指定を受けています。また両地区とも準防火地域に指定されており、修理等の際には土蔵等の歴史的建造物においても不燃化等の措置が求められるため、歴史的建造物の価値を損なわずに防火対策を施す必要があります。

#### ②自然公園等

磐梯朝日国立公園は、昭和25年(1950)に旧国立公園法によって国立公園区域として定められた後、新たに昭和32年(1957)の自然公園法の制定に伴って国立公園に指定されています。

山形県・福島県・新潟県の3県にわたり、出羽三山・朝日連峰・飯豊連峰・吾妻連峰・磐梯山・猪苗代湖を含む総面積1863.75km<sup>2</sup>の日本で2番目に広い国立公園でもあることから、「出羽三山・朝日地域」・「飯豊地域」・「磐梯吾妻・猪苗代地域」の3地域に区分されています。

本市には、自然公園法に基づく磐梯朝日国立公園として山都地域の一部が「飯豊地域」に、喜多方・塩川地域の一部が「磐梯吾妻・猪苗代地域」に指定されています。

また、令和3年(2021)10月、高郷町の福島県営荻野漕艇場から西会津町に至る阿賀川流域一帯を含む、会津の6市町にまたがる只見柳津県立自然公園が、越後三山只見国定公園へ編入され

るとともに、高郷町西羽賀地区の只見川上流から荻野漕艇場に至る只見川・阿賀川の河川区域の一部が新たに、国定公園として拡張されました。

ほかにも、福島県自然環境保全条例に基づき、熱塩加納地域の梅峰が「自然環境保全地域」に、山都地域の堂峰山が「緑地環境保全地域」に指定され、地域内における各種規制や必要な整備を行うことで優れた自然環境が保全されています。

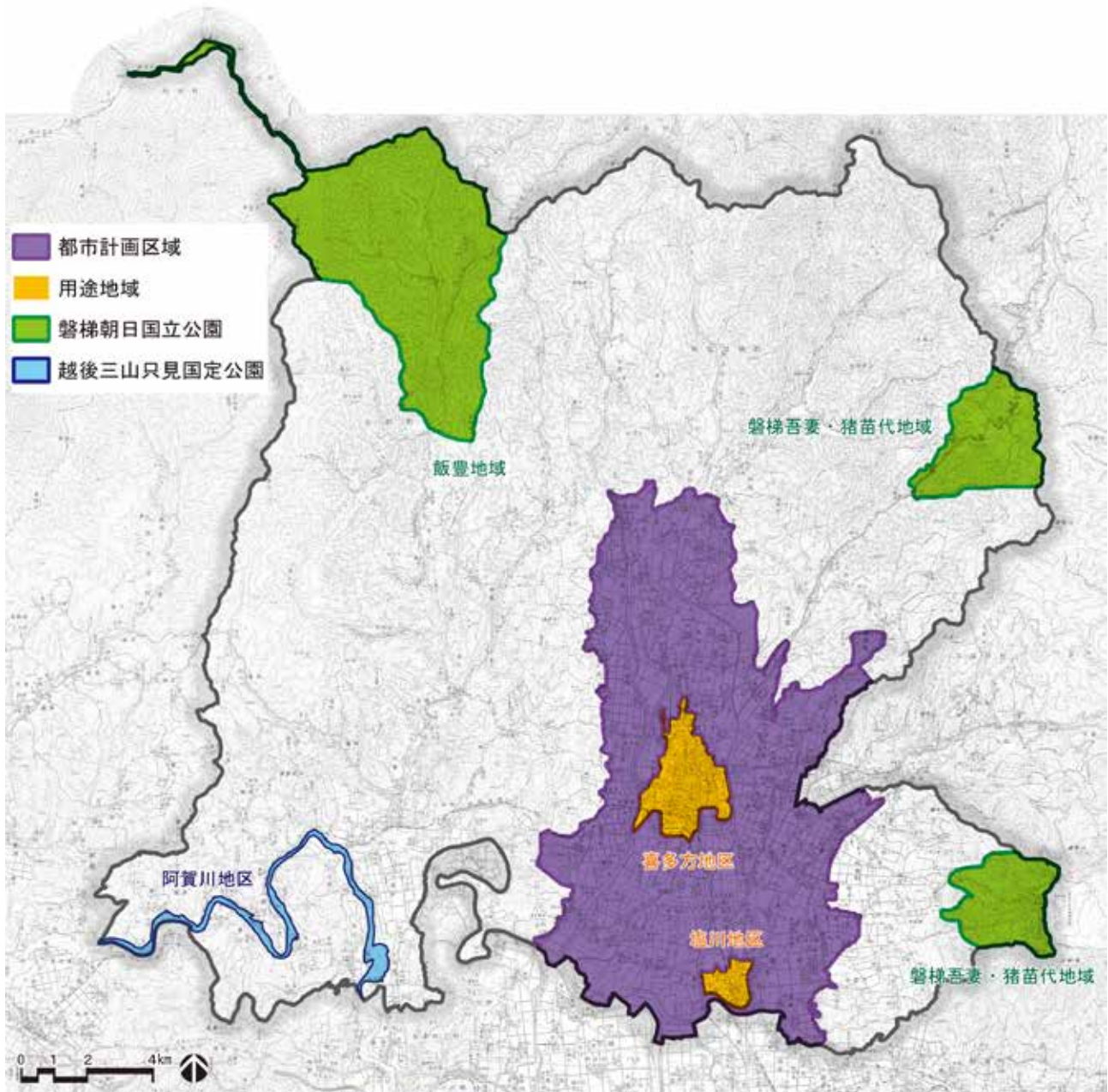


図 1-13 : 喜多方市の都市計画区域と国立・自然公園の範囲

## (5) 交通

本市の交通網の骨格は、南北方向の国道121号と東西方向の国道459号であり、この2つの国道は本市の中心部で交差しています。国道121号は、喜多方市街地と塩川市街地を連絡しており、日常交通においても重要な役割を担う道路であることから、市内で最も交通量の多い路線です。

また、会津縦貫北道路が平成27年（2015）に全線開通したことによって、磐越自動車道会津若松ICから喜多方市内へのアクセスが容易になりました。将来的には、会津縦貫南道路との接続も計画されており、更なる広域交通の利便性が期待されます。

鉄道は、JR磐越西線が福島県郡山市の郡山駅から会津若松駅を経由して、新潟県新潟市の新津駅<sup>にいつ</sup>まで連絡しています。市域内では、塩川、喜多方の市街地を経由して、阿賀川に沿って高郷へと連絡する路線となっています。

バスは、塩川・熊倉線、塩川・喜多方線、喜多方・坂下線、喜多方・裏磐梯線、喜多方市まちなか循環線等がありますが、利用者の減少のため山都、高郷方面の路線が廃止されています。

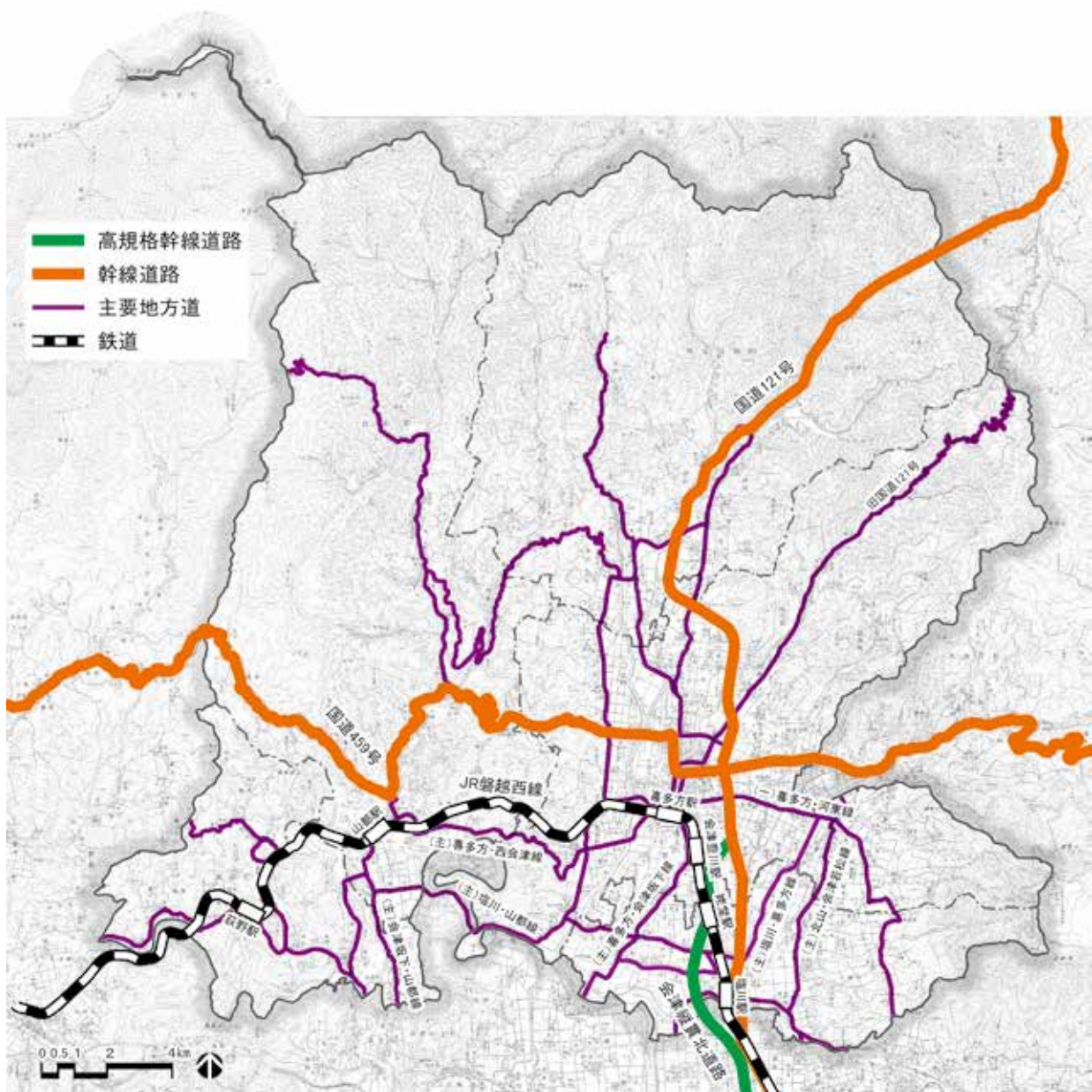


図 1-14 : 喜多方市域の主要道路及び鉄道  
(『喜多方市都市マスタープラン』を基に作成)

(6) 観光

本市を訪れる観光客は、年間180万人以上を数えています。平成23年（2011）3月に発生した東日本大震災により、同年の観光客数は一時的に160万人を割りましたが、翌年からは徐々に回復し、再び年間180万人を超える観光客が来訪しています。しかし、令和2年（2020）より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、都道府県域外への移動が抑制されていることから、観光客数は低下しています。

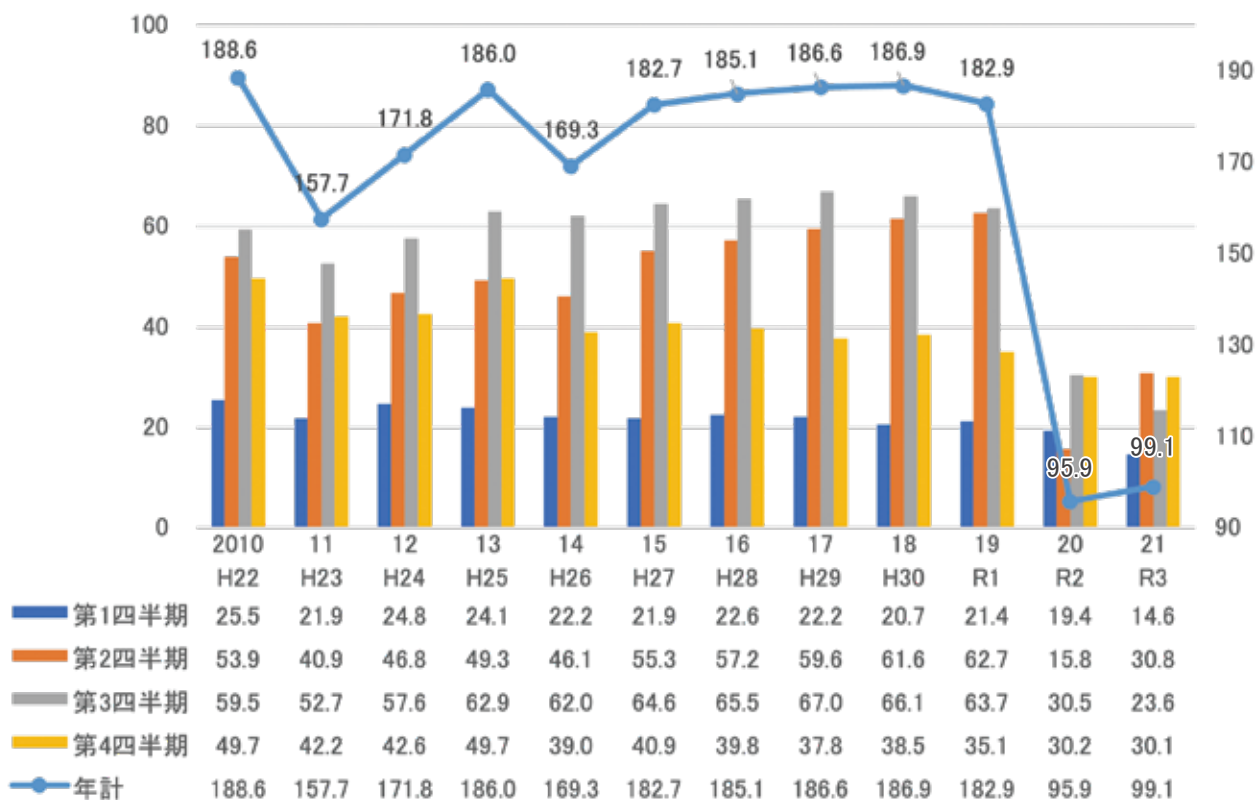


図 1-15：平成22年（2010）～令和3年（2021）までの市内観光客入込数  
（喜多方市観光交流課データを基に作成）

本市では、平成18年（2006）の市町村合併以降、各地域の特色ある豊富な地域資源を活用した誘客イベントや交流人口の増加に向けた事業の実施等、積極的に観光振興に取り組んでいます。また、旧喜多方市において宣言した「グリーン・ツーリズム<sup>5</sup>のまち」を新市発足に伴って再度宣言し、県内における先駆的自治体として都市農山村交流の取組を推進しています。令和3年（2021）には観光振興ビジョンが策定され、地域特性を生かした観光の魅力づくりを掲げて、本市の多様で豊富な地域資源を活用した滞在型・着地型観光の推進を図っています。

5 農山漁村に滞在し農漁業体験を楽しみ、地域の人々との交流を図る余暇活動のことです。長期バカンスを楽しむことの多いヨーロッパ諸国で普及しました。都市住民に自然や地元の人とふれあう機会を提供するだけでなく、農山漁村を活性化させ、新たな産業を創出すると考えられています。

## ①観光イベント

本市では、一年を通じて様々な場所で、各地域の自然・地理的な特性、特産物、歴史文化資源等をいかしたイベントが実施されており、観光客を引き寄せる魅力となっています。市の中心部に位置する喜多方では最も多くのイベントが実施されており、蔵の町並みをいかしたものが盛んです。熱塩加納では三ノ倉スキー場のオフシーズンを利用した花畑や旧国鉄日中線熱塩駅（日中線記念館）のライトアップ、塩川では川幅の広い河川の敷地を利用した川の祭典やバルーンフェスティバル、山都では山都そば、高郷では棚田等、各地域の特色をいかしたイベント等が実施されています。

表 1-2：喜多方市の観光イベント一覧（令和4年度 [2022]）

開催日	イベント名	地域
4月8日～27日	喜多方さくらまつり	喜多方
4月12日～24日	御殿場公園の桜ライトアップ	塩川
4月15日～24日	日中線しだれ桜並木のライトアップ	喜多方
4月17日	蔵のまち喜多方桜ウォーク	喜多方
4月19日～24日	日中線記念館桜のライトアップ	熱塩加納
4月23日～30日	雷神山春の花観賞会	高郷
4月24日	鳥屋山山開き	高郷
4月24日	黒森山トレッキング	山都
4月29日	大仏山山開き	喜多方
5月3日	黒森山春登山	熱塩加納
5月7日～23日	三ノ倉高原菜の花フェスタ	熱塩加納
5月28日	喜多方酒蔵探訪のんびりウォーク	喜多方
6月1日～15日	第39回ひめさゆり祭り	熱塩加納
6月3日～5日	蔵のまち喜多方さつきまつり	喜多方
6月5日	第16回ひめさゆりぶらりウォーク	熱塩加納
6月5日	たかさと棚田ウォーク春	高郷
6月15日～30日	花しょうぶ祭り	塩川
6月18日～7月10日	雄国沼シャトルバス運行（オーバーユース対策）	喜多方
7月2日	飯豊山山開き	山都
7月16日～17日 8月11日～15日 10月15日～16日	一の戸橋梁ライトアップ	山都
7月16日～17日	喜多方レトロ横丁	喜多方
7月16日～8月31日	山都雪室熟成そばまつり	山都
7月27日～29日	飯豊の集い	山都
7月30日～31日	日中飯森山沢開き	熱塩加納

開催日	イベント名	地域
7月31日	二市一ヶ村日橋川「川の祭典」	塩川
8月5日～8日	喜多方発 21世紀シアター	喜多方
8月8日～31日	三ノ倉高原ひまわりフェスタ	熱塩加納
8月14日～15日	蔵のまち喜多方夏まつり	喜多方
8月15日	やまとの夏まつり	山都
9月18日	たかさと棚田ウォーク秋	高郷
9月25日	御殿場マーケット	塩川
10月1日	喜多方KANPA I祭り	喜多方
10月7日～16日	蔵のまちアート・ぶらり～	広域
10月7日～16日	喜多方の染型紙 会津型ミュージアムウィーク	喜多方
10月9日～10日	会津塩川バルーンフェスティバル	塩川
10月15日～11月13日	山都新そばまつり	山都
10月16日	アイデミDAY	喜多方
10月22日～11月6日	第19回会津たかさと雷神新そばまつり ～今年も来た!! お家で新そばまつり～	高郷
10月29日	御殿場マーケット	塩川
10月29日	黒森山秋登山	熱塩加納
11月5日～6日	将棋の日	喜多方
11月6日	第13回たかさとリバーサイドウォーク	高郷
11月23日	塩川新そばまつり	塩川
12月23日～25日	日中線記念館クリスマスライトアップ	熱塩加納
1月11日～2月28日	第14回きたかた喜楽里博 “冬もよかんべ”ぐるり喜多方シールラリー	喜多方
2月26日	蔵・倉かんじきトレッキング	熱塩加納
3月11日～31日	会津山都寒晒しそばまつり	山都

## ②歴史文化資源展示施設・観光施設等

本市には観光施設以外にも複数の施設があり、歴史文化資源展示施設も観光施設としての側面を有しています。このほかの観光施設として物産館、体験施設、温泉施設等が市全域に点在しています。

本市の歴史や文化に関わる展示を行っている歴史文化資源展示施設については、旧市町村単位で郷土の歴史を中心に解説する施設があります。しかし、常時開館できる体制がなく、施設も老朽化し、歴史文化資源の十分な保存、公開、活用が行われていない状況であるため、歴史文化資源展示施設及び体制の整備が急務となっています。

塩川町には川番所をモチーフとした物産館が所在し、町の周囲を流れる河川とその歴史について解説しています。

体験施設や温泉施設は、そば打ちが体験でき山都そば・飯豊山についての資料館でもある山都町の飯豊とそばの里センター、600年の歴史を誇る熱塩加納町の熱塩温泉、様々な設備を完備した高郷温泉保養施設ふれあいランド高郷、三ノ倉スキー場等があります。

そのほか、複合的な施設として、国道121号沿いには、本市の特産物販売所、特産物をいかした料理を提供するレストラン、温泉施設等を有する道の駅ふれあいパーク喜多の郷が位置しています。また、観光客のための案内所も市街地を中心に設置されています。

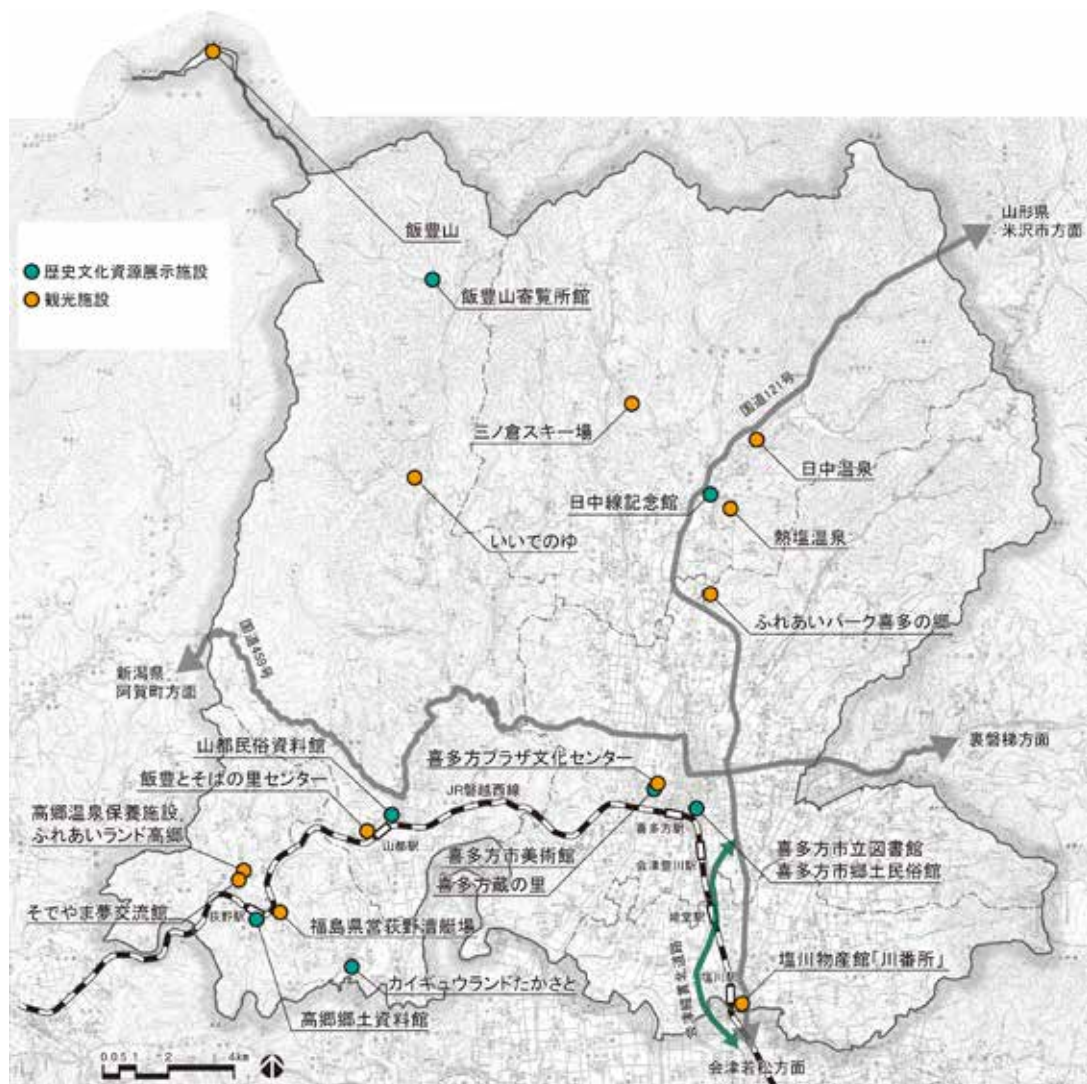


図 1-16：喜多方市の主要な歴史文化資源展示施設・観光施設位置図

表 1-3：喜多方市の歴史文化資源展示施設・観光施設等一覧

<p><b>喜多方市立図書館・喜多方市郷土民俗館</b></p> <p>大正12年(1923)に町立喜多方通俗図書館からスタートし、昭和47年(1972)に現在地に移転、創立100周年を迎えました。市の歴史や文化に関する蔵書も多く所蔵しています。市立図書館3階には、郷土民俗館として、米作りに関する道具や農閑期に行われる手仕事に関する道具等、喜多方地方の暮らしに関係する貴重な民俗資料を展示しています。</p>	
<p><b>喜多方市美術館</b></p> <p>煉瓦蔵をイメージした外観で平成7年(1995)に開館しました。地域文化の振興に寄与するとともに、美術に関する情報の提供・発信の場としての機能も果たしています。</p>	
<p><b>喜多方蔵の里</b></p> <p>蔵づくりの文化を後世に伝えることを目的として、敷地内には村役層農民の屋敷・店蔵・味噌蔵・穀物蔵・座敷蔵等の土蔵を移築しました。内部では郷土史家二瓶清氏のコレクションや会津型等の展示を行っています。</p>	
<p><b>喜多方プラザ文化センター</b></p> <p>約1,000人を収容できる大ホールや小規模公演向けの小ホール、会議室や視聴覚室等を備え、歴史文化資源に関するものを含む市内の様々なイベントや行事等に幅広く活用されています。</p>	
<p><b>ふれあいパーク喜多の郷</b></p> <p>会津若松から米沢に向かう国道121号沿いにあり、広域観光には最適のルート上にある道の駅です。レストラン・物産館・温泉保養施設「蔵の湯」・観光案内所等も併設されています。</p>	
<p><b>三ノ倉スキー場</b></p> <p>会津盆地を眼下に一望でき、冬期間のスキー等はもちろん、春は菜の花、夏から秋にかけては東北最大の約250万本のひまわり畑として多くの観光客が訪れ、本市の雄大な自然環境を体験することのできる施設です。</p>	
<p><b>日中線記念館</b></p> <p>昭和13年(1938)開通、同59年(1984)に廃止となった旧国鉄日中線熱塩駅の駅舎を利用し、鉄道関係資料を展示しています。駅舎は当時では珍しいメートル法での間取構造をもつ建物です。敷地内にはラッセル車や客車、転車台等もあります。</p>	
<p><b>塩川物産館「川番所」</b></p> <p>喜多方市の南の玄関口、塩川町の日橋川に架かる南大橋のたもとに所在します。1階は喜多方の名産品を取り扱った物産館、2階は河川資料の展示スペース「阿賀らん処」として、様々な映像や資料を見ることができます。</p>	

<p><b>山都民俗資料館</b></p> <p>山都町で使用していた民具や農具等を保管・展示しており、飯豊山麓のくらしを今に伝えています。そのほか、山都町の発掘調査で出土した土器・石器等も展示しています。</p>	
<p><b>飯豊山寄覧所館</b></p> <p>飯豊山の登山口・御沢野営場がある山都町川入集落に所在し、多くの登山者が立ち寄ります。この地域で使われた民具のほか、飯豊山信仰や木地師関係の資料を展示しています。</p>	
<p><b>飯豊とそばの里センター</b></p> <p>山都そばや飯豊の歴史を紹介するそば資料館と地元山都のそば粉100%の手打ちそばを味わえるそば伝承館があります。そば打ちの実演の見学やそば打ち体験もできます。</p>	
<p><b>高郷郷土資料館</b></p> <p>高郷町で使用していた民具や農具等のほか、藩政時代から高郷地域で行われていた蠟・漆・和紙等の資料、旧石器時代・縄文時代の土器・石器等の考古資料を展示しています。</p>	
<p><b>カイギュウランドたかさと</b></p> <p>会津に海が広がっていた1,000万年前を体験できる化石博物館です。地層に関する展示のほか、貝やクジラ、アイヅタカサトカイギュウ等の化石も展示されており、化石発掘体験もできます。</p>	
<p><b>高郷温泉保養施設ふれあいランド高郷</b></p> <p>飯豊山麓の山並みを望んで建つ、温泉に恵まれた本市の代表的な温泉保養施設の一つです。大浴場・露天風呂・泡風呂・薬草風呂・サウナ等を完備しており、くつろぎスペースのほか、子ども達のプレイルーム、パークゴルフコース等も充実しています。</p>	
<p><b>そでやま夢交流館</b></p> <p>ふれあいランド高郷に隣接する地域活性化センターで、ホールや研修室、体験室等を備え、そば打ちや郷土料理づくり体験ができ、農産物の販売等も行われています。</p>	
<p><b>福島県営荻野漕艇場</b></p> <p>昭和25年（1950）の第7回国民体育大会を契機に開設されました。これまで数多くの全国大会、東北大会が開催され、阿賀川の自然が体感できる風光明媚なコースとして人気があります。</p>	

### 3. 歴史的背景

#### (1) 原始：阿賀川と雄国山麓から始まる人々の生活

本市における最古の人間が生活した痕跡は、阿賀川の河岸段丘上に立地する塩坪遺跡で確認されています。この付近は、貝やサメのほか、アイヅタカサトカイギュウの化石も発見された場所でもあり、ナイフ形石器、彫刻刀形石器等が発掘調査によって確認され、後期旧石器時代後半期の約1万5千年前の遺跡と推定されています。

市南東部の雄国山麓には多くの縄文時代の遺跡が所在しており、縄文早～中期の集落遺跡である大原遺跡や、縄文早期中葉の「常世式」土器の標識遺跡となっている常世原田遺跡等が挙げられますが、なかでも、藤権現遺跡は、令和2年度（2020）の発掘調査において、土偶をはじめとした多数の遺物のほか、県内でも珍しい縄文時代の墓域が発見され、今後の調査成果が期待されています。

また、山間部の一ノ戸川沿いや只見川流域、盆地平坦部等、縄文時代の遺跡は市域の広い範囲に点在しており、人々のくらしの痕跡に触れることができます。

紀元前3世紀頃から始まる弥生時代の遺跡は複数確認されていますが、その多くは詳細が不明です。しかし、熱塩加納町の上野遺跡や岩尾遺跡からは合口土器棺等による弥生時代前期の再葬墓が検出されています。また、喜多方駅周辺に広がる長内遺跡からは、弥生時代中期の土器とともに穂摘具である石包丁が見つかっており、農耕が定着していたと考えられます。

縄文以降、日本海側や関東方面といった他地域の影響を受けたと考えられる土器が確認されており、人と物の交流があったことを示唆しています。

表 1-4：原始の主な歴史文化資源

喜多方地域	熱塩加納地域	塩川地域	山都地域	高郷地域
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芦平遺跡</li> <li>・ 大沢遺跡</li> <li>・ 川前遺跡</li> <li>・ 五軒丁遺跡</li> <li>・ 諏訪ノ宮遺跡</li> <li>・ 高柳遺跡</li> <li>・ 竹原遺跡</li> <li>・ 長内遺跡</li> <li>・ 道地遺跡</li> <li>・ 萩平遺跡</li> <li>・ 羽黒森遺跡</li> <li>・ 二又橋遺跡</li> <li>・ 塚田A遺跡</li> <li>・ 森台遺跡</li> <li>・ 水林山遺跡</li> <li>・ 村前遺跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩尾遺跡</li> <li>・ 上野遺跡</li> <li>・ 下川原遺跡</li> <li>・ 上台B遺跡</li> <li>・ 上台A遺跡</li> <li>・ 堰下遺跡</li> <li>・ 丸山遺跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内屋敷遺跡</li> <li>・ <b>大原遺跡</b></li> <li>・ 刈麻山遺跡</li> <li>・ 上ノ台遺跡</li> <li>・ 館ノ内遺跡</li> <li>・ <b>常世原田遺跡</b></li> <li>・ 鶴塚遺跡</li> <li>・ 藤権現遺跡</li> <li>・ 堀込遺跡</li> <li>・ 南原遺跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上ノ原遺跡</li> <li>・ 金山遺跡</li> <li>・ 上高野遺跡</li> <li>・ 川入遺跡</li> <li>・ 沢口遺跡</li> <li>・ 沢口段栗遺跡</li> <li>・ 下屋敷遺跡</li> <li>・ 上林遺跡</li> <li>・ 四寺沢遺跡</li> <li>・ 長者屋敷遺跡</li> <li>・ 二本木遺跡</li> <li>・ 廻戸遺跡</li> <li>・ 日照田遺跡</li> <li>・ 藤沢遺跡</li> <li>・ 谷地田遺跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石畑遺跡</li> <li>・ 上野遺跡</li> <li>・ 塩坪遺跡</li> <li>・ 田代遺跡</li> <li>・ 馬景遺跡</li> <li>・ 博毛遺跡</li> <li>・ 松下遺跡</li> <li>・ 松原利田遺跡</li> <li>・ 的場遺跡</li> </ul>

※名称がゴシック体のものは、指定等文化財を表します。

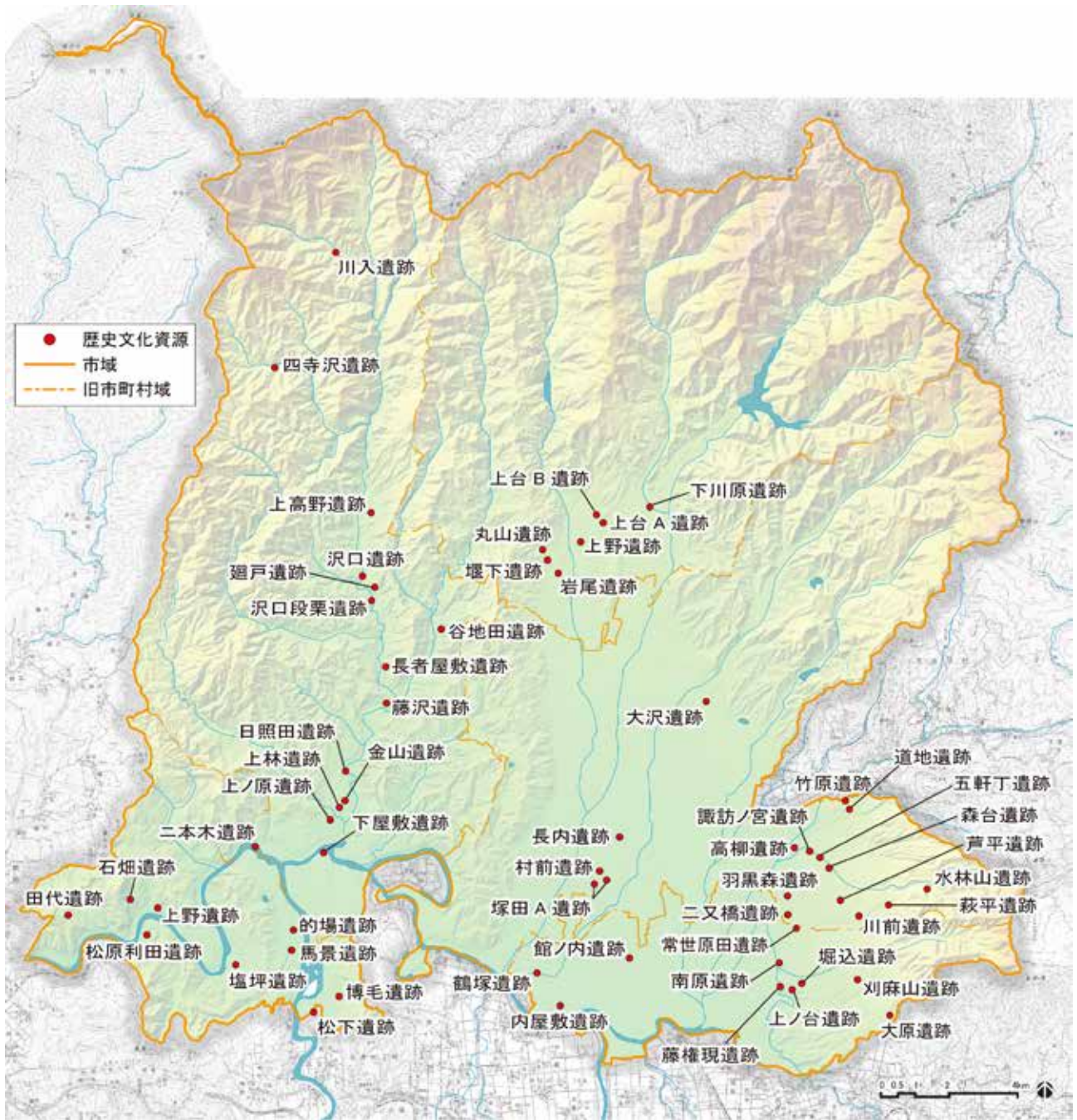


図 1-17：原始の主な歴史文化資源等位置図

(2) 古代：古墳時代～平安時代 山麓に形成される2つの勢力と古代社会

盆地北西部では、市内の慶徳町から市外の会津坂下町にかけて宇内青津古墳群（慶徳町には山崎横穴古墳、虚空蔵森古墳、灰塚山古墳、天神免古墳等が所在）が広がり、東日本最大級の豪族居館跡である古屋敷遺跡が所在しています。その北西に位置する灰塚山古墳からは2基の埋葬施設に加え、ほぼ全身の人骨、銅鏡、大量の鉄製品や壺等が発見され、古屋敷遺跡に居住した首長の墓である可能性も考えられています。これらの地域に対峙して盆地北東部には雄国山麓古墳群（十九壇古墳群、深沢古墳・田中・舟森山古墳、観音森古墳等）があり、同時期、会津盆地の中央低地を挟んだ東西に2つの首長勢力が存在していたと考えられます。

律令国家の成立過程で会津は陸奥国会津郡となり、9世紀前半までには、日橋川・阿賀川以北が会津郡から分置して耶麻郡となりました。平安時代に僧徳一が下向すると、会津にも仏教文化が流入しました。熊倉町の中道地廃寺跡はこの時期の創建と伝わります。内屋敷遺跡や荒屋敷遺跡はいずれも交通の要衝である日橋川と阿賀川の合流地点付近に位置し、水運の重要拠点として発展したと思われま。

新宮熊野神社は、天喜年間（1053～1058）に熊野堂村（会津若松市）に勧請された熊野神社が、応徳2年（1085）に後三年合戦で下向した源義家によって上三宮町岩沢（本宮）、慶徳町新宮（新宮）、熱塩加納町宇津野（那智）へそれぞれ遷座されたといわれています。拝殿にあたる長床は平安時代末期の創建と考えられますが、鎌倉時代中期以降の隆盛を物語る多くの宗教美術品を所蔵しています。また、同時期の遺跡として、盆地を臨む丘陵に営まれた慶徳町の松野千光寺経塚があります。東北地方最古である大治5年（1130）銘の石櫃をはじめ、12～13世紀中頃の陶製外筒容器、珠洲系陶器甕等が出土していることから、この地域は経塚を中心とした聖域と見なされ、墓域であったと考えられます。

表 1-5：古代の主な歴史文化資源

喜多方地域	熱塩加納地域	塩川地域	山都地域	高郷地域
<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩沢の熊野神社</li> <li>・小田高原窯跡</li> <li>・願成寺古墳群</li> <li>・木曽原遺跡</li> <li>・熊野神社御神像</li> <li>・熊野神社長床</li> <li>・熊野神社本殿</li> <li>・虚空蔵森古墳群</li> <li>・古四王神社</li> <li>・寺内古墳</li> <li>・天神免古墳群</li> <li>・銅造聖観音菩薩立像</li> <li>・中道地廃寺</li> <li>・糠塚古墳群</li> <li>・灰塚山古墳</li> <li>・招木遺跡</li> <li>・木造狛犬</li> <li>・木造相撲取像</li> <li>・木造相撲力士像</li> <li>・木造薬師如来座像附木造十二神将像</li> <li>・松野千光寺経塚出土品</li> <li>・水谷地古墳</li> <li>・山崎横穴古墳群</li> <li>・輪具一号墳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円田遺跡</li> <li>・温泉神社の大杉</li> <li>・宇津野の熊野神社</li> <li>・二本木原製鉄跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒屋敷遺跡</li> <li>・内屋敷遺跡</li> <li>・鏡ノ町A遺跡</li> <li>・鏡ノ町B遺跡</li> <li>・金森古墳</li> <li>・観音森古墳</li> <li>・高森山遺跡</li> <li>・田中・舟森山古墳</li> <li>・十九壇古墳群</li> <li>・常世・竹花古墳</li> <li>・深沢古墳</li> <li>・古屋敷遺跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御前清水遺跡</li> <li>・下長畑遺跡</li> <li>・木造大日如来坐像（泉福寺）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷古墳</li> <li>・塩峯峠（高寺伝説）</li> <li>・福富館</li> <li>・藤の森古墳</li> </ul>

※名称がゴシック体のものは、指定等文化財を表します。

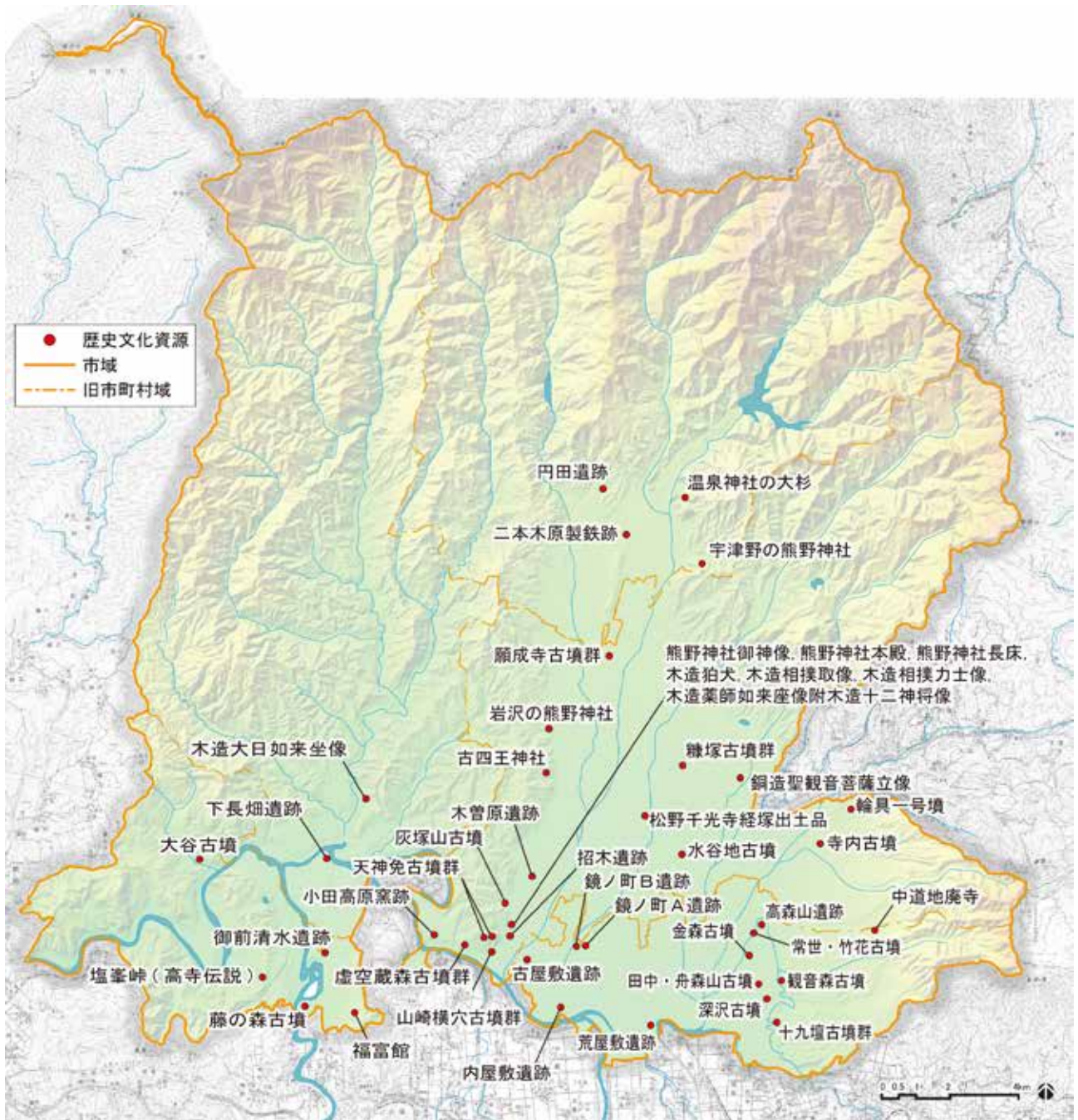


図 1-18 : 古代の主な歴史文化資源等位置図

(3) 中世：武家の台頭

平安時代末期、鎌倉幕府の有力御家人・三浦氏の一族である佐原義連は、文治5年（1189）の奥州合戦の功により、源頼朝から会津に所領を与えられます。この時期の「北方」の領域は加納荘を治める佐原氏と新宮荘を治める新宮氏によってほぼ二分されていました。

建暦2年（1212）、義連の孫新宮時連が新宮城を築きました。南には新宮熊野神社が鎮座しており、この地域一帯は会津北西部における中心地であったと考えられています。

那須の殺生石退治で知られる僧源翁は、応安元年（1368）に慶徳寺を開き、永和元年（1375）に護法山示現寺を再興、また慶徳稻荷神社も勧請したといわれ、この慶徳寺から示現寺に至る道は「源翁道」とも呼ばれています。その途中にある願成寺は、嘉禄3年（1227）に法然上人の高弟隆寛律師が開山し「木造阿弥陀如来及両脇侍像」をはじめ多数の歴史文化資源を有する名刹です。またこの時代、竹屋観音寺の木造如意輪観音坐像や金川寺の木造聖徳太子立像等の優れた仏像彫刻も造られました。

14世紀末頃～15世紀前半、新宮氏が蘆名氏との争いに敗れ滅亡すると、この地には駿河館をはじめ、蘆名氏家臣のものと推定される館跡が築かれ、蘆名氏の領域支配の拡大が見えます。現在も受け継がれている慶徳稻荷神社の御田植祭は、明応年間（1492～1501）に当地の地頭平田石見守により始められたと伝わっています。

蘆名氏支配のもとで、町割りや定期市が整備されたのもこの頃で、永禄7年（1564）に蘆名盛氏が小荒井を、天正10年（1582）には佐瀬種常が小田付の町割りを行いました。以降、小荒井・小田付は「北方」の経済・文化の中心地として発展し始めることになります。

表 1-6：中世の主な歴史文化資源

喜多方地域	熱塩加納地域	塩川地域	山都地域	高郷地域
<ul style="list-style-type: none"> <li>・青山城跡</li> <li>・会津大念仏撰取講</li> <li>・会津新宮城跡</li> <li>・会津念仏撰取講</li> <li>・会津の御田植祭（慶徳稲荷神社の御田植祭）</li> <li>・太田の供養碑</li> <li>・小田付伝統的建造物群保存地区</li> <li>・黒瀬館跡</li> <li>・熊野山牛玉宝印版木および宝珠</li> <li>・熊野神社経筒</li> <li>・慶徳城</li> <li>・五分一城</li> <li>・坂井館</li> <li>・下柴の彼岸獅子</li> <li>・勝福寺観音堂（勝福寺）</li> <li>・新宮熊野神社の大イチョウ</li> <li>・菅井の供養碑</li> <li>・駿河館跡</li> <li>・関柴館</li> <li>・大般若経附経櫃六合</li> <li>・鉄造阿弥陀如来及両脇侍坐像懸仏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄造三尊坐像懸仏（新宮熊野神社）</li> <li>・銅鐘（勝福寺）</li> <li>・銅鐘（新宮熊野神社）</li> <li>・銅製鰐口</li> <li>・銅造阿弥陀如来立像</li> <li>・銅鉢</li> <li>・布流遠藤家の供養碑</li> <li>・布流高橋家の供養碑</li> <li>・法然影像及び血脈版木</li> <li>・木造阿弥陀如来及両脇侍坐像</li> <li>・木造阿弥陀如来坐像（龍泉寺）</li> <li>・木造行道面</li> <li>・木造虚空蔵菩薩坐像（新宮熊野神社）</li> <li>・木造小動物像</li> <li>・木造如意輪観音坐像（新宮熊野神社）</li> <li>・木造毘沙門天立像（勝福寺）</li> <li>・木造不動明王立像</li> <li>・木造釈迦如来立像</li> <li>・木造文殊菩薩騎獅像</li> <li>・木造薬師如来坐像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正安の碑</li> <li>・示現寺文書</li> <li>・椿彫木彩漆笈</li> <li>・伝佐原義連五輪塔（岩尾館）</li> <li>・伝佐原義連の墓</li> <li>・木造虚空蔵菩薩坐像（板の沢）</li> <li>・湯館山城</li> <li>・木造聖徳太子立像（浄教寺）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒屋敷遺跡</li> <li>・冲舎利塔</li> <li>・鑑ヶ城跡土塁</li> <li>・鏡ノ町B遺跡</li> <li>・鏡ノ町A遺跡</li> <li>・上利根川石造供養塔</li> <li>・竹屋観音堂</li> <li>・弾正ヶ原</li> <li>・戸隠神社の大イチョウ</li> <li>・下遠田の板碑</li> <li>・下利根川石造供養塔</li> <li>・中ノ目念仏踊り</li> <li>・木造聖徳太子立像（金川寺）</li> <li>・木造如意輪観音坐像（観音寺）</li> <li>・木造地藏菩薩立像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿弥陀三尊種子供養塔（板碑）</li> <li>・伝木造千手観音立像</li> </ul>

※名称がゴシック体のものは、指定等文化財を表します。



図 1-19 : 中世の主な歴史文化資源等位置図

(4) 近世：北方の水陸両運の中継地として栄えた在郷町

田付川を挟んで東西に位置する小田付村と小荒井村は、戦国時代末に定期市が置かれると、以降は在方の商品流通の中心「在郷町」として発展していきます。毎年正月12日には小荒井、17日は小田付で初市が開かれ、郷頭宅前には市神を祀った市仮屋が建ち、俵引きが行われました。

商業が発達すると人や物の移動も活発となり、城下若松から塩川・喜多方を經由して米沢へと至る米沢街道や、若松から山都・喜多方・塩川を經由して津川（新潟県）へと至る越後裏街道が整備され、それに伴い一里塚、宿場町等が整えられていきます。また、阿賀川の舟運路も開かれ、大坂への廻米も行われました。その起点となったのが日橋川の塩川河岸です。

こうして力を蓄えた商人により酒造も始められ、藩の専売品となった漆器や漆蠟も発展します。小荒井村の小野寺家は、染型紙商として東北一円で販売を行っており、安政4年（1857）には、会津藩より御用達を拝命し、型紙を納めることを許されました。

一方、農村の支配は郷頭や村方三役により行われました。山都町一ノ木の旧一戸村制札場は、幕府や藩の御触を知らせる制札場が現在も当時の姿のまま残されている貴重なものです。

日々の生活に信仰は欠かせないものでした。一年の農事や祭事の物忌みとして、始まりと終わりに行う事八日等の年中行事、会津三十三観音めぐりに代表される観音信仰は市域各地でみられ、男子は成人儀礼として飯豊山に登りました。村々では悪霊退散を祈願して下柴や中村の彼岸獅子が舞い、先祖を供養する念仏踊りや、慶徳稲荷神社の御田植祭等、豊作を願う祭りも現在まで受け継がれてきています。幕末以降、各集落の鎮守の祭り等には四つ車に4本の柱を立て、屋根を取り付けた「太鼓台（太鼓屋台）」が見られるようになり、集落ごとに造られるようになりました。

表 1-7：近世の主な歴史文化資源

喜多方地域	熱塩加納地域	塩川地域	山都地域	高郷地域
<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵馬富士見西行図</li> <li>・会津の染型紙と関係資料</li> <li>・井上合名会社店舗蔵</li> <li>・上野家住宅旧穀蔵</li> <li>・小田付市（初市）</li> <li>・冠木商店質蔵、冠木商店主屋及び味噌蔵</li> <li>・願成寺本堂・旧阿弥陀堂・山門</li> <li>・上三宮瀬戸場</li> <li>・上三宮三島神社農耕絵馬</li> <li>・上三宮三島神社の太々神楽</li> <li>・宮中八幡神社農耕絵馬</li> <li>・旧手代木家住宅</li> <li>・旧外島家住宅</li> <li>・慶徳稲荷神社農耕絵馬</li> <li>・小荒井市（初市）</li> <li>・大般若経六百巻付経櫃六合</li> <li>・中善寺のめおとカリン</li> <li>・中村の彼岸獅子</li> <li>・藤樹学関係資料</li> <li>・二軒在家の大クリ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤崎三十三観音</li> <li>・熱塩の梵天祭</li> <li>・白山神社拝殿</li> <li>・示現寺観音堂、示現寺総門</li> <li>・草木塔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狐堰</li> <li>・駒形堰</li> <li>・御殿場</li> <li>・中道地竹細工</li> <li>・能力経塚及び経碑</li> <li>・駒形堰由来記</li> <li>・駒形堰碑</li> <li>・駒形大明神碑</li> <li>・杓子ヶ入のメクスリノキ</li> <li>・別府の一里塚</li> <li>・塩川市（初市）</li> <li>・舟曳きの図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会津家中諸役知行名鑑</li> <li>・会津藩領内地図</li> <li>・一ノ木の町並み</li> <li>・木曾市場（初市）</li> <li>・木曾・広野の町並み</li> <li>・絹本着色飯豊山参道絵図附桐箱一合</li> <li>・キリシタン類族文書</li> <li>・旧一戸村制札場（附制札13枚）</li> <li>・鈴</li> <li>・先祖譲状三軸外文書</li> <li>・館原代官所跡</li> <li>・館原渡船場</li> <li>・知行証文（飯豊山神社）</li> <li>・双盤（泉福寺）</li> <li>・銅造地藏菩薩坐像</li> <li>・道標（館原）</li> <li>・宝塔</li> <li>・御沢の杉と栢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利田の滝</li> <li>・春日神社石祠</li> <li>・加藤氏示達文書</li> <li>・川井渡船場</li> <li>・小林家所蔵の暦</li> <li>・斎藤家肝煎文書</li> <li>・石造五輪塔</li> <li>・綱手道</li> <li>・渡船場制札</li> <li>・銅製双盤（明照寺）</li> <li>・銅鐘（円満寺）</li> <li>・西羽賀の町並み</li> <li>・木造阿弥陀如来坐像（峯利田区）</li> <li>・木造三十三観音立像</li> <li>・六地藏石幢</li> <li>・渡部家所蔵古文書</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・米沢街道（上・中・下街道）・宿駅・越後街道・越後裏街道・舟運関係資料</li> <li>・会津三十三観音（大木・松野・綾金・高吉・熱塩・勝・熊倉・竹屋・遠田）</li> </ul>				

※名称がゴシック体のものは、指定等文化財を表します。



図 1-20 : 近世の主な歴史文化資源等位置図

(5) 近代：近代化と蔵のまちの形成

明治期に入り、国会開設や憲法制定等の声が高まるにつれ、地方でも自由民権運動が活発化し始めます。明治15年（1882）に勃発した福島・喜多方事件は全国的にみてもその先がけといえるものです。

国の富国強兵、殖産興業政策の中、明治5年（1872）に会津初の器械製糸工場である喜多方製糸場が開業します。製糸産業は商人たちの強力な援助のもと花形産業として地域経済を支えました。そのほか、繭・桑・人参・茶等の商品作物の生産量も急増し、伝統産業である酒・味噌醸造業、漆器業、木工業も販路拡大により発展、小野寺家の染型紙販売も大正期にかけて最盛期を迎えます。旧甲斐家住宅は、この時代における喜多方商人の贅を尽くした見事な建築で、庭園は県の指定名勝となっています。

また、明治13年（1880）の大火をきっかけに、蔵の存在が重視され始めます。明治23年（1890）には三津谷の登り窯が開窯し、当時の需要と相まってトンネル、坑道等の材料を供給する一大拠点へと成長しました。これ以降、煉瓦を用いた蔵や塀、煙突等の建造物が建てられるようになり、瓦葺も普及しました。

交通機関も近代化が図られ、郡山と新津を結ぶ岩越<sup>がんえつ</sup>鉄道は、明治37年（1904）に郡山－喜多方間、大正3年（1914）に全線が開通し、大正6年（1917）には磐越西線と改称します。喜多方駅と山都駅間にある一の戸橋梁は明治43年（1910）に供用され、当時は東洋一の規模を誇りました。

また、喜多方と熱塩を結ぶ日中線は栃木県（下野）－会津（岩代）－米沢（出羽）を結ぶ野岩羽線構想の実現のため昭和13年（1938）に開業しました。この鉄道は住民の足であると同時に与内畑鉱山の鉄鉱石を輸送する役割も担っていました。

この時代、本市からは、多くの自由民権運動家をはじめ、社会福祉の母といわれる瓜生岩子<sup>うりゅういわこ</sup>（小田付村）、生涯学習の理念を唱えた社会教育家蓮沼門三（山都町相川）ほか、時代を先取りする多くの人物を輩出していることも特筆すべきことです。

表 1-8：近代の主な歴史文化資源

喜多方地域	熱塩加納地域	塩川地域	山都地域	高郷地域	
<ul style="list-style-type: none"> <li>井上合名会社座敷蔵、醸造蔵</li> <li>岩代国耶麻郡小田付村絵図</li> <li>上野家住宅主屋、味噌蔵、煉瓦蔵、調度蔵、煉瓦塀</li> <li>旧岩月小学校校舎</li> <li>旧甲斐家住宅座敷、店蔵、醤油蔵</li> <li>旧嶋新商店店舗蔵、座敷蔵及び主屋、一号蔵・二号蔵及び三号蔵、四号蔵</li> <li>旧山時呉服店家財蔵</li> <li>島慶園店舗蔵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>松本屋店舗蔵、文庫蔵、家財蔵</li> <li>三津谷の登り窯</li> <li>三津谷の煉瓦蔵</li> <li>矢部家住宅座敷蔵、一号蔵、綿蔵</li> <li>若喜商店店舗、煉瓦蔵、座敷蔵</li> <li>若菜家住宅煉瓦座敷蔵、煉瓦三階蔵、作業蔵、煉瓦味噌蔵</li> <li>大和川酒造煉瓦煙突</li> <li>喜多の華酒造煉瓦煙突</li> <li>吉の川酒造煉瓦煙突</li> <li>煉瓦米蔵</li> <li>金田洋品店</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加納鉱山</li> <li>旧国鉄日中線熱塩駅（日中線記念館）</li> <li>与内畑鉱山</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金川発電所</li> <li>館稻荷神社農耕絵馬</li> <li>弾正ヶ原</li> <li>東電猪苗代第四発電所</li> <li>雄国隧道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一の戸橋梁</li> <li>絵馬</li> <li>喜多方美術倶楽部の絵画</li> <li>原川橋梁</li> <li>南山荘</li> <li>宮月・館原船橋</li> <li>山都駅 油庫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一竿の船橋</li> <li>萩野石</li> <li>釜ノ脇橋梁</li> <li>山郷発電所</li> <li>新郷発電所</li> <li>西羽賀船橋</li> </ul>

※名称がゴシック体のものは、指定等文化財を表します。

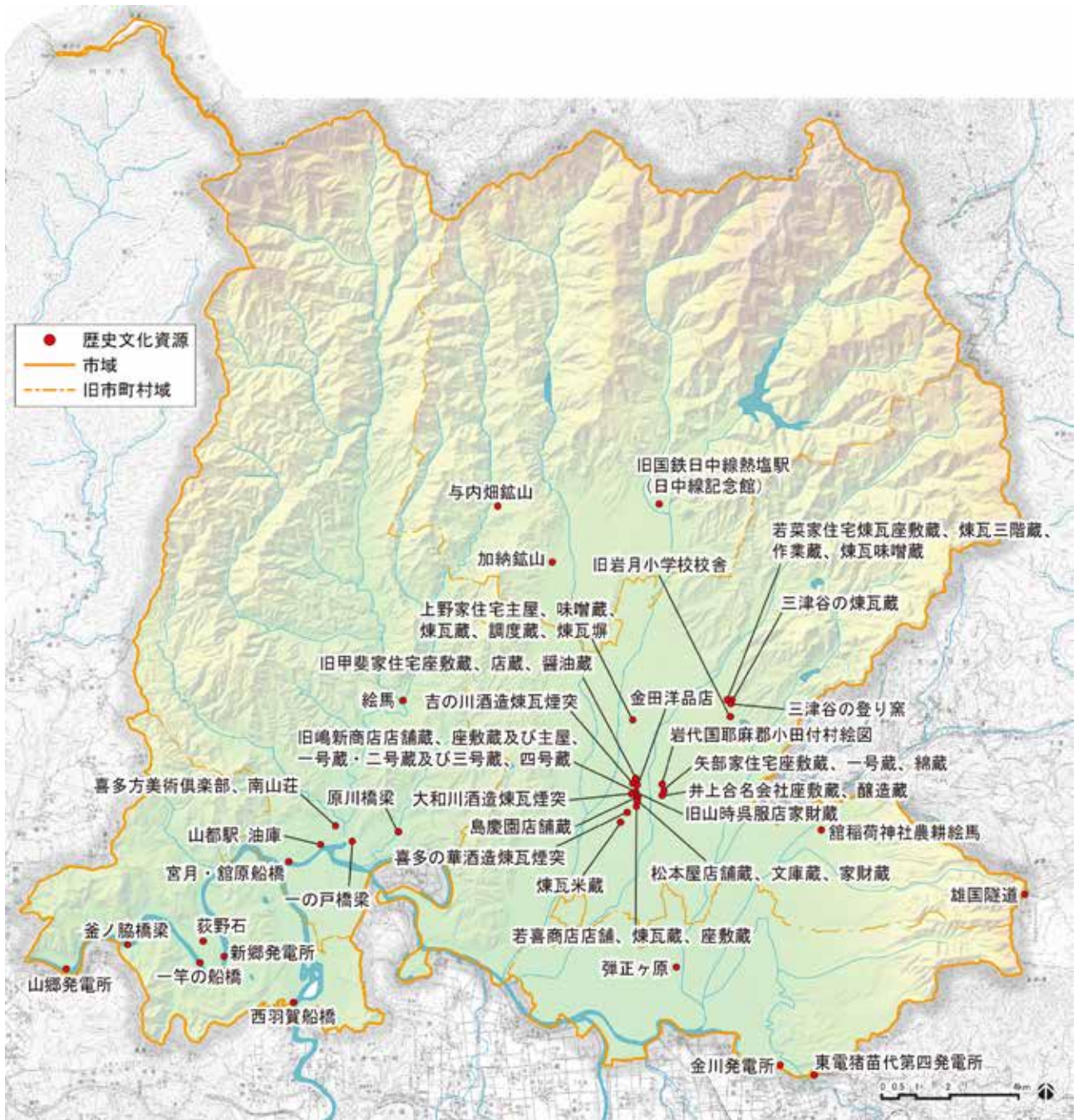


図 1-21：近代の主な歴史文化資源等位置図

## (6) 現代：新喜多方市の誕生と観光都市づくり

昭和29年（1954）3月に喜多方市、熱塩加納村、山都町、7月に塩川町が誕生し、翌年には高郷村が成立しました。

喜多方町時代の工業の中で漆器業につぐ地位を占めていた製糸業は、養蚕業の衰退や生糸価格の低落、安価な生糸の輸入、化学繊維の普及等により、昭和50年（1975）に会陽製糸（当時は会陽工業株式会社）が閉業したことでその幕を閉じました。

日中線は国鉄財政再建計画の赤字路線とされ、昭和59年（1984）3月廃線となりますが、その一方で、同年6月に国道121号の大峠トンネルが完成し、喜多方と米沢間の新しい交流の幕が開きました。

地場産業の衰えとともにその役目が薄れてきた蔵でしたが、昭和40年代以降、写真展やテレビ等で紹介されたことによって「蔵のまち喜多方」は再度脚光を浴び始め、それとともに戦前から地元で親しまれていたラーメンが紹介されると「喜多方ラーメン」も一躍全国区となりました。

平成18年（2006）、喜多方市・塩川町・山都町・熱塩加納村・高郷村の5市町村が合併し、新喜多方市が誕生しました。「蔵とラーメンのまち」という全国的な知名度を得て、観光都市への機運が高まり、伝統野菜や山都そばをはじめ、それ以外の食文化にもスポットが当てられ始めました。

また、廃止された日中線の旧熱塩駅舎は「日中線記念館」として生まれ変わり、サイクリングロードとして整備が行われた線路の跡地の一部は、しだれ桜並木として、三ノ倉高原のひまわり畑やヒメサユリ群生地等と並び、多くの観光客が訪れるスポットとなっています。福島県営荻野漕艇場は、二度の国民体育大会をはじめ、数多くの全国大会や東北大会が開催されており、風光明媚なコースとして好評です。このように地域の特徴をいかして現在も様々な知名度向上が図られています。

表 1-9：現代の主な歴史文化資源

喜多方地域	熱塩加納地域	塩川地域	山都地域	高郷地域
<ul style="list-style-type: none"> <li>・喜多方ラーメン</li> <li>・日中線跡サイクリングロード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中ダム（日中ひざわ湖）</li> <li>・大平沼発電所</li> <li>・旧国鉄日中線熱塩駅（日中線記念館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山都そば</li> <li>・飯豊とそばの里センター</li> <li>・沼ノ平（福寿草群生地）</li> <li>・飯豊連峰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県営荻野漕艇場</li> <li>・鳥屋山登山道</li> <li>・第二新郷発電所</li> </ul>

